

# アジアの友

The Asia-no Tomo

No. 559

## 留学生別科の再生は可能か

一般社団法人国際教育研究コンソーシアム

国際教育夏季研究大会 (SIEJ 2024) セッション2より



# 「私費外国人留学生のための大学入学案内」 2025年度版が完成！



- 学部、学科インデックスで行きたい大学がすぐ見つかる
- 選考方法、試験日程、授業料、募集定員などの詳細情報を掲載
- 各大学が指定する日本留学試験の科目一覧あり

全国の書店、Amazon、凡人社のWEBサイトでお求めになれます。

<編集発行> 公益財団法人アジア学生文化協会 <発売> 株式会社 凡人社

<定価> 2,530円 (税込)

# アジアの友

2024年7-9月号 第559号

## 目次

### 特集

#### 「留学生別科の再生は可能か」

2 一般社団法人国際教育研究コンソーシアム

国際教育夏季研究大会 (SIIEJ 2024) セッション2より

4 ・「留学生別科の再生は可能か? 日本語教育を軸とした留学生別科と学部・研究科との連携の意義と課題」

東洋大学国際教育センター特任講師 二子石 優

13 ・「ASEAN諸国留学生奨学金制度 ~留学生別科からの一貫教育~」

亜細亜大学国際連携部部长 三澤 勝

21 ・「日本語教育認定法と大学留学生別科の可能性」

公益財団法人 アジア学生文化協会 白石 勝己

### 新星学寮での生活

30 ⑮「韓国人寮生に聞く新星学寮の生活」 宋 東奎さん

### 私の意見私の体験

36 「東京とイスタンブール 混雑する街の違い」

サファン グル ~トルコ

### コラム 泰日工業大学奮闘記

39 ⑳「ミャンマー人留学生にインタビュー」 水谷 光一

42 知友会通信 奨学金情報、イベント情報

44 MEMBERS 会費とご寄附のご報告

# 留学生別科の再生は可能か

## 一般社団法人国際教育研究コンソーシアム

### 国際教育夏季研究大会 (SIIEJ 2024) セッション2より

#### 【国際教育夏季研究大会 (SIIEJ 2024) について】

2024年8月7日・8日の両日、一般社団法人国際教育研究コンソーシアムが主催する国際教育夏季研究大会 (SIIEJ 2024 Summer Institute on International Education, Japan) が立命館大学茨木キャンパスで開催された。同研究大会は2018年より毎年開催されており、本年のテーマは「国際教育が牽引するダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン」で、オープニング・イベントでは文部科学省高等教育局参事官 (国際担当) の佐藤邦明氏により「高等教育の国際化を考える」と題し基調講演が行われた。2日にわたり5つのワークショップと12のセッションが行われ、日本各地から278大学、その他非営利法人や政府機関、教育関連企業などからも70団体以上の参加があった。

本誌ではそのうちセッション2で行われた「日本語教育と大学学部・大学院の接続・連携 - 留学生別科の再生は可能か-」の発表を掲載することとした。発表者は以下の3名である。

#### ◆ 二子石 優 東洋大学国際教育センター特任講師 (博士 一橋大学)

ベトナムホーチミンのドンズー日本語学校、学校法人長沼スクール東京日本語学校などを経て、現在東洋大学国際教育センター特任講師。外国人留学生の受入れ、日本人学生の送り出しを担当。

外国人留学生の入学・進学経路の研究や、国内外の日本語教育機関と大学との連携を視野に入れた研究を進めている。

最新の論文に「日本語学校の歴史的変遷とこれから - 「日本語教育機関認定法」制定をめぐって-」(2024) など。



#### ◆ 三澤 勝 亜細亜大学国際連携部長

学長室外事課、国際交流部、就職部を経て、学長室秘書課長、留学生支援課長を務め、現在に至る。

5か月間のアメリカ留学、短期語学留学プログラムの企画・運営、留学生のリクルート活動やキャリア支援等に従事。

亜細亜学園評議員 国家資格キャリアコンサルタント

アジアセパタクロー連盟副会長、日本セパタクロー協会副会長



#### ◆ 白石 勝己 公益財団法人アジア学生文化協会 理事長

## 【セッション2概要】

留学生の入国から日本での就職までを見据えた日本語教育のニーズを知り、大学は何ができるのかを各参加者の所属する教育機関で考えられるよう整理する。すでに私立大学の50%が定員未充足と言われ、大学院においては都市部の国立大学でさえも留学生なしでは、すでに成立しなくなっているのが現状である。このような状況下、2033年外国人留学生40万人という数字目標も政府より示され、多くの大学が留学生の受入れを拡大していくことは時代の潮流と言える。

一方で、大学の生き残り策として、強引に留学生数を増加させたことによって在籍・在留管理問題等を引き起こしてきたことも周知の事実である。さらに、学修支援・キャリア支援の面でも多くの課題を抱えていることが報告されている。このような状況でポイントとなるのが、日本語教育とそれをどのように大学学部もしくは大学院での学びと接続・連携をさせていくかという点であろう。

本セッションでは、日本語教育と大学学部・大学院での学びの連携にあたり、大学が設置する日本語教育機関である留学生別科、日本語教育センター（以下、別科等）に着目する。まず、留学生別科等の概要とそれらが直面している「日本語教育認定法」への対応について概観する。次に、大学の視点から、日本語教育と大学学部・研究科への接続・連携の事例について紹介。そして、留学生別科等から学部・大学院での学びへの接続、キャリア支援までを見据えた教育課程を提案したい。



SIIEJ2024 会場の様子



実行委員長 芦沢真五氏（関西国際大学副学長）挨拶

# 留学生別科の再生は可能か？

## 日本語教育を軸とした留学生別科と学部・研究科との連携の意義と課題

東洋大学国際教育センター特任講師 二子石 優

### 1. はじめに

私はこのセッションのタイトルを「留学生別科の再生は可能か？」としました。とすると留学生別科があたかももうダメなのではないかと言っているようですが、そうではなく、留学生受入れのトータルな視点を持って日本語教育から学部教育、そしてキャリア教育まで繋げていくことで、今こそ大学別科の存在が重要になってきているとの思いから、このセッションを行うこととしました。

参加している方々の中には、うちの大学には別科は無いという方もいらっしゃるのではないかと思います。別科のような日本語予備教育の機能を、今後新たに作っていくのか、もしくはもう別

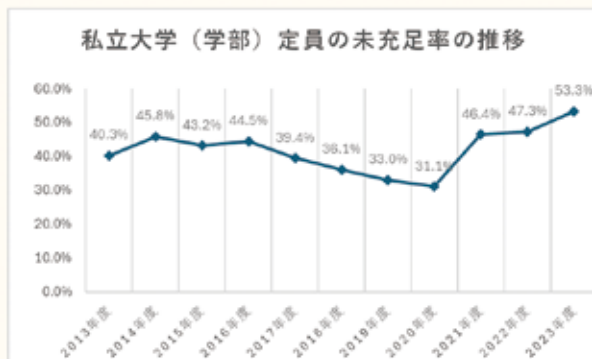
の形で行っているのか、そういうものが必要か否かを考える機会にさせていただければいいかなと思います。

私のトピックは「日本語教育を軸とした留学生別科と学部・研究科との連携の意義と課題」ということで話します。テーマは大きく三つあります。まずこのセッションの趣旨説明についてお話をさせていただきます。次に大学別科とはなにかという紹介、最後に今年に入ってから留学生別科を持っている大学にヒアリング調査を行いましたので、まだ十分な分析には至っていませんが、現時点でわかっている調査結果を報告できたらと思います。この間、「日本語教育機関認定法<sup>1</sup>」という新しい法律も関わってきますので、新しい知識としても聞いていただけたらと思います。

#### ・ 大学（学部）

シート①

- ・ 全体的に見ると**定員割れ**が常態化
- ・ 私立大学の**50%**が定員未充足（日本私立学校振興・共済事業団 2023）



出典：日本私立学校振興・共済事業団（2013～2023）より発表者作成

1. 正式名称は「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」

②

- ・ **大学院**
- ・ **研究型大学院：留学生なしでは成立しない（白石 2019）。**
- ・ **中国人留学生の増加 + 高学歴化：都市部大学院の留学生数・割合の増加**

	国立	公立	私立	合計
大学院学生数（修士課程 + 専門職学位課程 + 博士課程）	153,354	17,488	90,940	261,782
うち留学生数	35,206	2,326	20,154	57,686
割合	23.0%	13.3%	22.2%	22.0%

出典：文部科学省（2023-2024）「文部科学統計要覧」より発表者作成  
2022年5月1日現在

	東京大学大学院(2024)	大阪大学大学院(2024)	一橋大学大学院 (2023)	東洋大学大学院 (2023)
大学院学生数（修士課程 + 専門職学位課程 + 博士課程）	13,394	7,784	1,838	997
うち留学生数	4,046	1,730	570	262
割合	30.2%	22.2%	31.0%	26.3%

出典：各校発表資料より発表者作成  
4

## 2. 日本語教育を軸とした留学生別科と学部・研究科との連携の意義

まず留学生別科の意義についてですが、存在自体「厳しい」という背景が存在しています。私立大学の学部は全体的に見ると定員割れが常態化していて、すでに50%の大学が定員の未充足の状況にあるというのが2023年度のトピックになっています。大学院に関してはすでに留学生なしでは成立していないという状況です。特に中国国内での高学歴化を背景に、中国人留学生の大学院在籍者数も増加しています。今までは大学院留学生というと「理系」というイメージがあったと思うのですが、データを見ていくと必ずしも理系だけではなくて、人文科学・社会科学専攻は大学院全体で28.9%、私立大学に限ってみると43.2%がいわゆる「文系」学生です<sup>2</sup>。都市部のいくつかの大学を拾っただけですが、一橋大学など文系の大学院は31%、東京大学も30%が留学生ということで、かなりの

留学生が在籍しています。私立大学ですが、私が所属する東洋大学の場合も数は多くはありませんが26%が留学生という状況にあります。そういう意味では大学院も大学も留学生は大学にとってすでに重要な構成要素となっており、彼らの日本語教育について真剣に考えていかなければいけない状況であるわけです。

## 3. 大学別科における在留管理

一方で、留学生政策施策としては、2033年までに40万人を受け入れるということと、彼らの卒業後の就労定着をどうしていくかということが強く求められてきている状況です。このような状況の中で今まで大学における外国人留学生の受け

③

**大学・大学院における外国人受け入れの問題点**

- ・ **強引な留学生誘致**
  - **在籍・在留管理問題**等を引き起こしてきた  
(例) 酒田短期大学(2001年)  
東京福祉大学(2019年) など
- ・ **留学生の定着**
  - **学修支援・キャリア支援**の面でも多くの課題を抱えている  
(例) 英語トラックコースの学修支援、就職支援  
留学生の日本国内企業への就職者希望者と就職者数の乖離 (九門 2020, 2022)

2. 文部科学省（2023）「学校基本調査 / R5年度 高等教育機関 学校調査」より

④

**外国人留学生の国内就職率 48%→60%**

- ・ 留学生受入れ拡大方針
- ・ 2023年4月教育未来創造会議（第二次提言）
- ・ 2033年までに年間**40万人**の留学生の受入れ
- ・ 外国人留学生の国内就職率**48%→60%**
  - 多くの大学が引き続き留学生の**受入れを拡大**していくことは時代の潮流
  - 受入れだけでなく、**定着（就職支援）**が重視されるように

教育未来創造会議（2023）「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ<MIRA>」（第二次提言）

入りがスムーズに行われてきたかという点、そうではない面も多々ありました。一つ目としては、在留席管理の問題でずいぶんとマスコミを賑わせ、これが一人歩きしてしまった面もあるのですが、在籍しているはずの留学生がいなくなっていたといった問題は近年では2019年にありましたが、2000年初頭にも同じような問題は起きています。このように大きな報道にならないまでも、日常的にくすぶっていた問題であることは皆さんご存知の通りではないでしょうか。

留学生30万人計画以降、卒業後の就労定着というところに視点が置かれている中で、留学生はしっかりと就職できているのかということ、やはり

大きな課題を抱えています。特に英語トラックの学生がそうですが、ほかにも留学生の希望する進路と日本国内企業の希望との乖離ということが言われています。

先ほどの留学生誘致の問題に関わって言いますと、2019年にある大学が大きな事件を起こしたことから、文科省、そして出入国管理庁の双方から方針が通達されました。何かと言いますと、大学のもっぱら日本語教育を行う留学生別科に対して、しっかりとした在留管理体制が整っていないということがここでは言われています。要するに管理・指導体制を作ってくださいということが、2019年の時点で出されました。これが2023

⑤

## 文部科学省・法務省出入国在留管理庁の対応

**2. 非正規・別科・専門学校への追加的対応方針**

(1) 非正規・別科（専ら日本語教育を行うもの以外）専ら通称する学校への対応方針

(2) 専ら日本語教育を行う別科（留学生別科）への対応方針

➢ 大学における日本語教育も「法務省告示基準」（＝日本語学校の設置基準）に準じることが示された。

➢ 2024年4月「日本語教育機関認定法」施行

➢ 留学生別科も「日本語教育機関認定法」の対象に

2019年6月文部科学省・出入国在留管理庁「留学生の在籍管理の徹底に関する新たな対応方針」

## 文部科学省・法務省出入国在留管理庁の対応

⑥

(3) 留学生別科及び研究生・聴講生・科目履修生等について

大学に設置される別科のうち留学生を対象として教育を行うもの(以下、「留学生別科」という。)や、研究生や聴講生、科目履修生等のいわゆる「非正規生」としての受入れについては、学生の確保という観点のみで無条件な受入れを行わないように努めるとともに、大学設置基準等を参考にし、教育費、校地・校舎面積、学生数、授業の方式、施設及び設備その他について教育にふさわしい環境の確保を図る必要があります。また、日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律(令和5年法律第4号、以下「日本語教育機関認定法」という。)の認定の対象となる日本語教育機関においては、日本語教育機関認定基準に基づき認定を受けることが必要となりますが、日本語教育機関認定法に基づく認定を要さずに日本語教育を実施できる場合(出費外国人留学生制度による出費外国人留学生や大学間交流協定に基づく交換留学生のみを対象とする場合等)についても、日本語教育機関認定基準等を参考にし、適切な教育環境を確保することが望まれます。

また研究生・聴講生・科目履修生等の非正規生(専ら日本語教育を受ける者を除く)については、当該課程を受講するために求められる必要な日本語能力(学位課程において日本語で授業を行う場合、日本語能力試験N2レベル相当以上が目安)やその他求められる能力が確保されているかどうかを確認の上、受け入れてください。なお、これらの者のうち単位が与えられる者は、大学設置基準第31条第1項の「科目等履修生」に当たりますが、同条第2項に基づき適切に単位を授与する必要があります。

研究生・聴講生・科目履修生等の非正規生であって、一定の日本語能力(日本語で授業を行う場合、日本語能力試験N2レベル相当以上)を備えていない留学生を対象に専ら日本語教育を行うおそれがある場合は、原則として日本語教育機関認定法に基づく留学のための課程の認定を受けた認定日本語教育機関でなければ、入学しようとする外国人に「留学」の在留資格が認められないとする制度改正(上述基準命令の改正)が予定されており、日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律等の施行について(通知)(令和5年12月28日付文化庁次長・総合教育政策局長・高等教育局長通知)等を参照の上、適切な対応をお願いします。

※個別の専攻分野の名称を定むなど、おおよそ日本語教育を主目的とは位置付けていない別科や課程等であっても、学生を受け入れる際に求めている日本語能力や、提供される教育の内容等が、実態として日本語教育機関認定法の適用対象であると判断される場合には、前法に基づく留学のための課程の認定を受ける必要が生じますので御確認ください。

研究生・聴講生が留学の在留資格を得るためには、出入国管理及び難民認定法第七十条第一項第二号の基準を定める省令(平成2年法務省令第16号、以下「上述基準省令」という。)により、1週間以上10時間以上の授業時間が必要ですので、履修可能科目の設定や学生に対する履修指導等において御確認ください。

2024年4月文部科学省高等教育局参事官(国際担当) 佐藤 邦明

年の「日本語教育機関認定法」の大学の留学生別科への適用につながり、次の通知、2024年4月に出たばかりのものですが、留学生別科、もしくはN2レベルにない研究生・聴講生・科目履修生を教える大学は、「日本語教育機関認定法」の対象になるとされました。この「日本語教育機関認定法」というのは、日本語学校の認定基準と同様のもの、要するに日本全体として文部科学省が日本語教育を行う機関を認定するという制度で、日本語学校か大学かという区別ではなく、教える内容として、日本語教育を行う機関が満たすべき基準を定めこれを文科省が認定するというところで、実は国家的なかなり大きな枠組みとなっています。

### 4. 留学生別科における アドミッションポリシー

大学の留学生別科の運営はかなり難しい状況であるという一方、留学生受入れ自体は拡大状況にあるということで、その中で法律も決まってきたというところが今回の背景にはあります。このような状況で、これまでの大学の一般的な留学生の受け入れ、いわゆる正規生の受け入れというのは、学部生だと約50%、大学院生だと約30%が日本語学校経由だと言われています<sup>3</sup>。2024年現在、中国人留学生が日本語学校の約3割を占めています<sup>3</sup>、大学や大学院に行きたいと希望を持っている学生がおり、経済力もあることから塾にも

通ってかなり勉強して受験をしています。人気のある大学に関して言えば、待っていれば留学生は来ますというような状況です。しかし、ただ待っている、来てくれる学生だけではないのかというところ

- これまでの外国人留学生の受入れ ⑦
  - 日本語学校からの受入れ：学部生の約50%、大学院生の約30%が日本語学校経由(二子石 2019)
  - 大学は日本語学校からの入学生を待っていればいいのか?
- 学生獲得の視点の必要性
  - ほしい学生はどんな学生か(アドミッションポリシーの明確化)
  - 奨学金をつければ学生獲得が可能になる(日本語学校も大学も)
- 自大学で日本語教育から専門教育まで一貫した教育
  - コース①留学生別科→大学学部→就職
  - コース②留学生別科→大学院→就職
- 日本語教育と大学学部・大学院での学びをいかに接続・連携をさせていくかが課題

3. アジアの友(546)を参照

### 大学における日本語教育の4形態 ⑧

1. 正規生（学部・大学院）への日本語教育
  - ・目的：学位取得、キャリア形成
  - ・実施：日本語教育センターなどの全学組織、所属学部
2. 別科生への日本語教育
  - ・目的：進学予備教育
  - ・実施：留学生別科
3. 交換留学生への日本語教育
  - ・目的：日本語学習そのもの、文化体験的要素
  - ・実施：日本語教育センター、留学生別科
4. 聴講生・科目等履修生への日本語教育
  - ・目的：日本語学習そのもの、文化体験的要素、進学予備教育的要素
  - ・実施：日本語教育センター、留学生別科

### 留学生別科とは ⑨

- ・学校教育法第91条
 

大学には、専攻科及び別科を置くことができる。  
大学の別科は、前条第一項に規定する入学資格を有する者に対して、**簡易な程度において、特別の技能教育を施すことを目的とし、その修業年限は、一年以上とする。**

▶特別の技能教育→留学生を対象とした日本語教育
- ・学校数
  - ・2018年度「[外国人留学生向けの教育を行う大学別科における教育の実施状況の公表について](#)」
  - ・67校（2024年現在、正確な数は不明）

になると思います。

自分の大学で日本語教育から専門教育まで一貫した教育を行っていかねばいけない。じゃあどうやってこれを接続させるのかということが、この後、三澤さん、白石さんの発表につながって、今回考えられたらいいかなと思います。

### 5. 留学生別科の機能

留学生別科とはどんなところなのか？というトピックですが、まず大学の中での日本語教育の在り方を大きく

にも、また一つ視点も持っていただきたいと思います。要は学生獲得の視点で、どんな学生が欲しいのかというところを明確にするべきではないでしょうか。同じペーパー試験であれば均一化された留学生になってしまうというところでは。

学生獲得の視点を持つと、やはり独自で行う日本語教育と自分の大学の学部・研究科との接続連携が重要になってくるのかなと思います。また、欲しい学生を獲得しようとした場合、やはり奨学金が今まで大きな力を持ってきました。奨学金はスタートとしてはすごく重要だと考えます。知名度の低い機関であっても、奨学金とそれに見合う教育をアピールすることで、比較的留学生獲得というのは可能になっていたというのが、今までの経験だと思います。そうした意味でも、大学として欲しい学生というのはどういう学生なのかというところは、日本語教育を軸とした留学生別科と学部・研究科の連携を考える上でのスタート地点

四つに分けてみました。これ以外にも私の大学ではこんな日本語教育を行っているというところがあるかと思いますが、正規生、別科生、交換留学生、研究生・聴講生・科目等履修生等への日本語教育が行われていて、それぞれいろいろな部署、センター、学部、研究科が教えているということだろうと思います。メインは正規生への語学履修科目に当たるところで、日本語教育センターなどの全学組織、もしくは所属学部で教えている。そして、大学別科では交換留学生に教えていたり、科目等履修生にも教えていたりというように、実は別科はいろいろなところに関わりが点在しています。

別科というのは何なのか法律的に見ると、学校教育法に定められていて「簡易な一定程度の技能を施すことを目的」として設置され、留学生に対しては日本語教育を行うということで留学生別科として認められています。

留学生別科の数ですが、なかなか正確に最新の数が出てきません。直近のものでは2018年の文科省の調査の67校ですが、現状、実際かなり減少傾向にあると思います。

## 6. 留学生別科へのヒアリング調査

シート⑩以降がヒアリング調査の結果です。このヒアリング調査では先ほどの文科省の2018年のリスト67校すべてに調査依頼をいたしました。中にはすでに別科を閉校して学生募集をストップしているという答えであったり、返事が無いところもたくさんあり、67校のうち実際に運営しているのはさらに少ない数であろう、というのが2024年度、コロナ禍後の状況ということになると思います。

今回のヒアリング調査に回答を得た大学は10校でした。

その後オンラインで聞き取りをしました。まず別科はどんなところかということで、どうやって学生を募集しているか、在籍中の教育はどんなことを行っているのか、そして進路指導はどうしているのか。また、2024年4月に「日本語教育機関認定法」というのが制定されましたので、これには対応するのかどうかというところを聞いています。

### 6-1 教育の目的と実施形態

実際にいくつかのポイントをご紹介します。この10校では教育目的、実施形態が3つの形に分

## ⑩ 留学生別科ヒアリング調査報告 —留学生別科の置かれた状況—

- ・ヒアリング調査
- ・対象校：2018年「外国人留学生向けの教育を行う大学別科における教育の実施状況の公表について」に掲載された67校すべてにヒアリング調査をメールにて依頼
- ・実施時期：2024年4月～6月
- ・回答校：10校
- ・オンラインによる聞き取り調査を実施
- ・質問項目：入学、在籍中の教育、進路指導、「日本語教育機関認定法」への対応状況

### 実施形態及び目的

1. 進学予備教育型…6校
2. スタディアブロード型（交換留学生）…1校
3. 融合型：進学予備教育型・スタディアブロード型…3校

\*進学予備教育型とは…自大学の学生を自前で育てる

\*スタディアブロード型とは…協定校からの学生の日本語教育、日本文化教育

### リクルート方法

1. 大学全体の外国人入試
2. JASSO海外留学フェア  
 >入試部や国際部が主体となり、学部・大学院入学レベルに満たない入学希望者を別科へ誘導している。
3. OB・OG組織
4. 海外の留学エージェントの利用…2校
5. 国内の日本語学校

かれました。まず進学予備教育型で、日本語を教えて自分の大学に送り出す、もしくはほかの大学や専門学校に進学する、つまり多くの日本語学校と同じように進学のための教育を行っているのが6校でした。次にスタディアブロード（受入れ）型で、留学生別科という科は設けていますが、ここでは交換留学生に対する日本語教育を行っているところが1校。そして、これらの融合型で進学予備教育とスタディアブロードのミックスというところが3校ありました。この3校の中でもいくつかパターンがあって、ほぼスタディアブロード寄りというところもありますし、進学予備

⑬

**日本語教育と学部・研究科との連携****教育課程の連携**

- ・なし
- ・同一教員が別科・本科のカリキュラムを作成
- ・学部の日本語教育を別科が提供
- ・別科はキャリア教育無し→本科でキャリア教育を実施

**入試制度や修了要件の連携（条件付き入学許可・単位互換制度）**

- ・なし

▶別科と本科の大きな壁がある

良いという留学生別科もありました。

**6-3 本科との連携状況**

次に教育内容に関してです。実際に別科と本科は連携しているのかということですが、教育課程、カリキュラムの連携はほぼない

教育寄りというところもありました。

**6-2 留学生募集**

実際の入り口のところで、学生募集はどうやっているのかというところは、大学ということで、大学全体で外国人入試を設けているところが多くあるようです。あとはJASSOの海外留学フェアに積極的に出ているという話を聞くことができました。ここで大学全体として入試部、もしくは国際部などが主体となって海外で大学の紹介をして行く中で、ぜひ入りたいという学生で日本語レベルが学部もしくは大学院のレベルに満たない者を別科に誘導している、というのが留学生別科の一つの特徴かなと思われます。また、OB・OG組織を通じて学生募集をするというところもありました。ほかに海外の留学エージェントを利用しているというところが、10校中2校ありました。多くの日本語学校での学生募集は、海外の留学エージェントを通じて学生募集をしていて、そこにはお金も発生しています。そのような学生たちが日本語学校で学んだ後で大学に入って来るわけですが、別科に関していうと「エージェントを使うということには抵抗感を感じている」もしくは「大学全体として学生を集めるためにエージェントにお金を使うというのは難しい」という話を聞くことができました。ただそれでもこの10校の中には、やはりしっかりとしたエージェントを選んで、そのエージェントから良い学生を受け取ることが

というのがこの10校の状況でした。同一の教員が別科も本科もカリキュラムを作っているとか、学部の日本語教育を別科が提供しているとか、別科にはキャリア教育はないけれど本科でキャリア教育をしているといったように、いくつかのパターンはありますが、残念ながら一つの一貫した課程として別科、本科の接続をうまく回しているというところは少なかったです。

また、入試制度としては、多くの大学が推薦制度を設けているものの、いわゆる条件付き入学許可、つまり日本語能力が一定のレベルになったら、学部に入学できる制度や、別科で取得した日本語科目が本科進学後に卒業要件に加算される単位互換制度を実施している大学はこの10校の中にはありませんでした。カリキュラムや入試制度という観点からみると、別科というのが、なかなか本科と対等に話をするのが難しい、壁があるような話を聞きました。

自前で海外募集した学生を、自前で育てたいという意味では、自分の大学に進学させるというところが、別科が持つ大きなポイントだと思われる。

**6-4 自大学への進学割合**

ここにA大学からJ大学まで10大学のデータを示しましたが、このような形でばらつきがあります。自大学に進学するという意味では100%進学するB大学や、J大学がありますが、4割、3

⑭

## 自大学への進学

A大学	B大学	C大学	D大学	E大学	F大学	G大学	H大学	I大学	J大学
4割	10割	7～8割	9割	3～4割	スタ ディア ブロード 型の み	7割	5～6割	スタ ディア ブロード 型の み	9～10割

### 担当者からの声

- ▶自大学への進学はばらつきがある。
- ▶奨学金プログラムだから10割が自大学へ進学
- ▶自大学への進学を強制することはできない。
- ▶自大学への進学定員があり、他大学へ進学せざるを得ない。
- ▶自分の大学という環境を好きになることが自大学進学につながっている。

16

割のところもあるようです。これにはいろいろな声がありました。奨学金プログラムだから10割が自分の大学に進学するというところ。一方で、進学は、あくまでも学生自身が決めることなので強制することはできないということで、学生のリクルートの時点では自分の大学に行きたいと言っていたけれども、1年～2年間の学習の中で（進学希望が）変わっていくのは仕方がない、というようなお話を聞くことができました。ほかには自分の大学に募集定員があって別科生であっても入学試験で点数が取れなければ他大学に行かざるを得ない状況があるといったところもありました。また、かなり重要な点だと思うのですが、いくつかのところでは自分の大学という環境で日本語を勉強することで、その大学が好きになり、自分の大学に進学していくというところにつながっているという話が聞けました。

### 6-5 「日本語教育機関認定法」への対応

最後になりますが、「日本語教育機関認定法」への対応状況についての聞き取りですが、まずこの「日本語教育機関認定法」とは何かというところでは、認定基準というものが設けられています。教育課程であったり、授業時間数であったり、校舎の大きさ、先生の数などがあるので

すが、その整備をして文科省による審査認定を受けなければなりません。それだけではなく、定期報告審査ということで、常に定期報告を提出しなければなりません。そのような認定を受けて在留資格「留学」で学生を受け入れることができることとなります。この日本語教育機関の認定を文科省から取らなければ、「留学」資格で学生を受け入れることができないというような法律です。

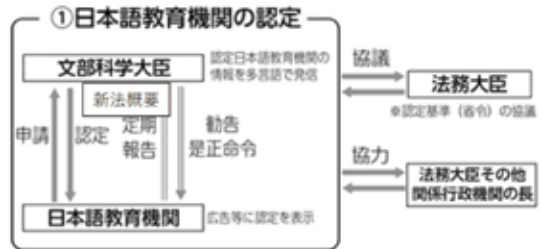
それでは実際に別科はどのように対応しているのかというと、10校中1校のみ対応するとしていて、それ以外は検討中ということでした。大学からの意見としては、この認定基準というのは日本語学校を基準としているので、大学にはそぐわないとか、日本語学校と一緒にされては困るとか、大学の自由な教育というものがこの認定法で阻害されてしまうなどが挙がりました。教育課程の内容も日本語参照枠にはめられますので、自由な教育ができなくなる、より文化的な要素を取り入れたり、課外教育を取り入れたりという教育が阻害されてしまうという声が聞こえました。

この「日本語教育機関認定法」に対する対応の低調さの要因ですけれども、まず別科自体が認定法の枠に入るかが曖昧だという声を聞きました。これは今年の4月から6月の時点のヒア

## • 「日本語教育機関認定法」とは

⑮

- 「認定基準」に基づく教育環境・教育課程の整備
- 文部科学省による審査・認定
- 審査→認定→定期報告審査→認定→定期報告審査→
- 認定=在留資格「留学」による生徒の受入れ可能



向学新聞2023年7月号より

17

## 留学生別科の置かれた状況 - 「日本語教育機関認定法」への対応

⑯

- 大学からの意見
  - 「認定基準」は日本語学校を基準にしているため、大学にはそぐわない。
  - 日本語学校（マンションのワンフロアのイメージ）と同じにしてほしくない。
  - 自由な教育が阻害される。
- **10校中1校のみ対応済**、その他は検討中
- 対応率の低さの要因
  - どこまでが「認定法」の枠に入るかの曖昧さ
  - 「認定法」の意義が伝わっていない。
  - 規制が大きくなる。それでも別科を続ける意味があるのか？
  - 別科を運営すると赤字になる→ビジネスモデルとしても疑問視→廃止
  - 「法務省告示基準」を基準とした認定のため、大学が対応するには組織を変える必要がある。

リングだったのでまだ早い段階ではあったのかもしれませんが、自分の大学は取らなければいけないのかどうかということも、よくわからないというところがありました。そのほか認定法にはどういう意味があるのか伝わっていないという声がありました。

この状況のなかで、規制が大きくなりビジネスモデルとして成り立たない。別科を続ける意味があるか検討している。別科の運営では赤字になるので廃止、もしくは発展的解消というような状況になっているという声も聞かれます。

## 7. 終わりに

では別科は終息していただけないのか、特にこの「日本語教育機関認定法」をきっかけにそうになってしまうのか？ いや、そうじゃないはずです。やはり自分の大学で学生を育てることは大切だよね、ということでこのあと亜細亜大学の事例を三澤さんから紹介いただき、そして白石さんの方から最後にまとめという形で話をさせていただけたらと思います。まずは私の発表は以上です。どうもありがとうございました。

# ASEAN諸国留学生奨学金制度 ～留学生別科からの一貫教育～

亜細亜大学国際連携部部长 三澤 勝

皆さん、おはようございます。亜細亜大学国際連携部の三澤と申します。本学には留学生が300人ほどいるのですが、留学生に関わることは生活面や学習面のサポートなど、全般をインターナショナルセンターで担当しています。私も二子石先生の大学留学生別科に関するヒアリングを受けまして、本学の事例をお話ししたところ、SIEJのセッションでぜひ紹介してほしいということで今回登壇させていただくこととなりました。

これからお話しする内容ですが、まず本学の留学生受け入れ状況と留学生別科の概要についてご説明いたします。それから、企業の寄付によって運営しているASEAN諸国留学生奨学金制度について、紹介させていただきます。さらに、この奨学金制度に付随した学部横断的プログラムと、奨学生の就職支援等についてお話させていただき、最後に別科の課題について触れたいと思います。

## 1. 外国人留学生の受入状況と 留学生別科の概要

本学の外国人留学生受入れの歴史ですが、1954年に香港から一度に96人の留学生を受け入れたことが始まりとなっています。こちらの写真(シート①)は、当時最寄りの駅の商店街に建てられた看板ですけれども、96人の留学生が来たということで、町をあげての歓迎ぶりだったというふうに聞いています。この時の受け皿として、大学の前身である短期大学に中国留学生部が開設されました。その後、1962年に留学生部を亜細亜大学留

学生別科と改組しまして、現在に至っております。

今年の5月1日時点で、外国人留学生は全学で310名在籍しています。内訳としては中国人学生が6割、続いてベトナム人学生が2割で、全体的にアジアを中心とした国々からの留学生となっています。

次に留学生別科の概要ですけれども、来年4月入学生の募集人数は30名としており、入学時期は春学期の4月のみとなっています。学習期間は1年間で、受け入れ形態は大学・大学院への進学を目的とした学生と、交換留学生を対象とした融合型となっています。クラス編成は、コロナ前まで3クラス体制でしたが、現在は日本語能力試験(JLPT)のN3合格レベルのAクラスと、N4合格レベルのBクラスの2クラス体制で実施しています。入学者の出身国・地域については、一般募集の学生が多い時には中国、台湾など漢字圏の学生が多かったのですが、後に紹介させていただくASEAN諸国留学生奨学金制度を開設してからは、非漢字圏の東南アジア諸国からの留学生が中心となっています。本学の別科の特色の一つとしては、こちらも後ほど説明させていただきますが、学部、大学院への推薦入試制度があります。

別科の授業は、月曜日から金曜日まで毎日朝8時45分から夕方5時までと、授業時間数は多くなっています。一コマの授業時間は大学と同じで、105分となっています。授業期間は、これも大学と同じで春学期、秋学期各13週で行っています。日本語の技能を総合的に学習しますが、日本事情という科目もあり、日本の地理や産業、経済等に

## シート①

## 外国人留学生の受入状況

- 1954年（昭和29年）  
日本経済大学短期大学附属中国留学生部を開設  
中国香港から96名の留学生を受け入れ
- 1962年（昭和37年）  
留学生部を亜細亜大学留学生別科と改組
- 2024年（令和6年）5月1日時点  
310名の外国人留学生在籍



ついて学習しています。また、進学を見据えて週2コマ英語の授業もカリキュラムに組み込まれています。秋学期には、日本事情の一環として一泊二日の研修旅行ですとか、都内見学、それから近隣の小学校訪問等も行っています。

1年間の学費は64万4千円となっています。これには先ほどの研修旅行とか学生研修費も含まれています。入学検定料は2万円です。

本学の留学生別科で学ぶ利点としていくつか挙げさせていただきますと、一番はどこの留学生科でも同じだと思うのですが、大学の施設を利用できるということです。図書館、食堂、体育館等、学部生・院生が使う施設を一緒に利用できるということが一つのメリットであると考えています。また、担任制により一貫した指導を行っておりまして、3名いる日本語専任教員は、学部の日本語教育も担当しています。

それから、留学生別科生を対象とした独自の奨学金制度として、成績優秀者に対する奨学金がありまして、企業や退職した教職員などが寄付をしている冠奨学金も、留学生別科生にも適用されています。

また、留学生会が主催する

色々なイベントがあり、つい昨日まで、一泊二日で山中湖に日本人学生と留学生と一緒にいくキャンプがあったのですが、こうした国際交流キャンプですとか、5月には日本人学生や近隣の方も呼びびて、留学生が色々な国の料理を振る舞う国際交流パーティーが行われています。それから新入留学生歓迎会ですね。これ

も学部、大学院の留学生が集まって行うイベントに別科の学生も一緒に参加します。このように、日本人学生や多国籍の留学生と交流できるところも、大学における留学生別科のメリットとしてあげております。

学部への推薦入試制度については、別科での定期試験の点数と出席率の条件をクリアした学生が、推薦入試制度を受けることができ、学部の面接試験に合格しますと、希望の学部に入学できる制度となっています。

学部、院生の留学生と同じサポート体制というところでは、別科生も含めた全留学生に対して大学が総合保険に加入しており、病気やケガなどがあつた場合には、この保険でカバーされることに

## 留学生別科概要 ②

- 募集人員：30名
- 入学時期：春学期（4月）のみ
- 学習期間：1年
- 受け入れ形態：融合型
- クラス編成：Aクラス N3合格レベル  
Bクラス N4合格レベル
- 入学者の出身国・地域別状況  
ASEAN諸国留学生中心
- 学部への推薦入学制度

## 留学生別科〔時間割・学費〕

2024年度時間割(予定) 1コマ=105分						学費	
	月	火	水	木	金	1年間一括納入 2024年度実績 ※学費に教科書代を含む	
1時限 8:45-10:30	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語	入学金	130,000円
2時限 10:45-12:30	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語	授業料	460,000円
3時限 12:45-1:30	日本語	日本語	日本語	日本語	日本語	学生研修費	50,000円
4時限 1:45-2:30	日本語	英語 (初級の授業)	日本語	日本語 (初級の授業)	英語 (初級の授業)	学生健康保険入会金	500円
						学生健康保険組合費	3,500円
						合計	644,000円



なっています。また、家を借りる時に必要となる連帯保証人制度も、別科の学生に適用しています。

### 2. 別科から学部まで連続した奨学金 —ASEAN 諸国留学生奨学金制度—

#### 2-1. 奨学金のsponsorについて

次に、別科から学部までの連携教育に対する奨学金制度について紹介させていただきますが、その前にこの奨学金の主な出資者が東急グループであるということで、東急グループと本学の関係について少しご説明させていただければと

思います。

あまり知られてないのですが、本学は東急グループの一つの大学です。東急株式会社は、東南アジアのタイやインドネシア等で、不動産事業や住宅の分譲賃貸事業等を進めておりまして、ベトナムではホーチミンから一時間ぐらいのところにあるビンズン省で、2012年から大規模な都市開発を行っています。住宅や商業施設等の開発に加えて、2012年からはバス事業を展開しており、東急のバスをこの新都市で走らせていて、将来的には鉄道も走らせるというふうに聞いています。

このように、東南アジアで事業展開を進めている東急株式会社と本学との関係で、2016年に当時の理事長が中心となって、ASEAN 諸国からの留学生を支援しようということで、ASEAN 諸国留学生奨学金制度が開設されることになりました。この奨学金制度は、日本企業で活躍できるグローバル人材育成を目指し、産業界はもとより広く社会の期待に応えられる真の国際人を育成するというを目的としています。寄付

### 留学生別科で学ぶポイント

- 大学の施設を利用できる
- 担任制による一貫した指導
- 独自の奨学金制度
- 日本人や多国籍学生との交流
- 学部・院への推薦入試制度
- 学部・院生と同じサポート体制



金をいただいている企業は、東急株式会社とそのグループ企業が主ですが、他にキリンホールディングスさんですとか大成建設さんなどの企業からも、賛同をいただきこれまで寄付をいただいております。

## 2-2. 2つの奨学金コースとASEAN 諸国での学生募集活動

この奨学金制度では、コースを二つに分けておりまして、別科コースは留学生別科から学部4年までの5年間、学費相当額、教材費、それから当初2年間の指定宿舍費を免除するという形で奨学金を支給しています。学部コースについては、学部の4年間、学費相当額、教材費、当初2年間の指定宿舍費を免除しています。

奨学生のリクルートにつきましては、これまで二つのパターンで行っています。当初は本当にネットワークがなくて、どういふふうのリクルートしようかと迷いました。一つ目の協定校推薦では、本学を卒業したタイの留学生が、日本語教育をかなり熱心に行っていて、タイ国内の日本語弁論大会で優勝するほどの実績を持っている王立の高校を紹介してくれました。この高校と、2016年に連携協定を結んで、毎年最大3名、優秀な学生を推薦してもらっています。

それからもう一つは、一般公募での募集です。選考については、協定校推薦も一般公募も書類選考とオンライン面接で行っています。ベトナムに関しては、高校で日本語を学習している学生が多く、北のハノイから中部のフエ、南のホーチミン

## 東急グループの大学

- ・ 学校法人五島育英会  
1955年設立 東京都市大グループ
- ・ 学校法人亜細亜学園  
1941年設立 亜細亜大学 亜細亜大学大学院、亜細亜大学留学生別科
- ・ 2019年12月：大学間連携協定締結



亜細亜大学  
ASIA UNIVERSITY

## 東急のベトナム開発

- ・ 2012年から、ビンズン省ビンズン新都市開発を進めている。
- ・ 2014年から、バス事業を展開



## ASEAN諸国留学生奨学金制度

「日本企業で活躍できるグローバル人材育成」を目指し、産業界はもとより広く社会の期待に応えられる真の国際人を育成する。

### 1. 別科コース

支給期間：5年間（留学生別科1年+学部4年間）  
支給総額：約600万円（学費相当額+教材費+当初2年間の指定宿舍費）

### 2. 学部コース

支給期間：4年間（学部4年間）  
支給総額：約500万円（学費相当額+教材費+当初2年間の指定宿舍費）

<これまでの奨学金制度賛同企業>

キリンホールディングス(株) 大成建設(株) 東急(株) (株)NKB (株)ぐるなび  
サッポロホールディングス(株) 滝基金 他15社

亜細亜大学  
ASIA UNIVERSITY

に至るまで、募集活動を行う地域が広いものですから、フォースパレーコンシェルジュという、もともとベトナムで日系企業に人材派遣を行っている企業に業務委託をして、広報活動から出願書類の確認、それから志願者の問い合わせなどに対応してもらっています。このほかの国に関しましては、我々が直接高校を訪問したり、JICAの現地機関である人材育成センターで毎年留学フェアを行っているので、そうしたところに参加したりして募集活動を行っています。

## 2-3. ASEAN 奨学生の出願資格、日本語能力要件など

次に ASEAN 奨学生の出願資格と条件についてですが、ASEAN10 カ国のうち、該当国の国籍を

## 奨学生の募集・選考

⑦

- ・協定校推薦：王立アソクラブ・ウィットナーライ・ランソット高校（タイ）  
2016年 連携協定、覚書調印



- ・一般選考：業務委託（ベトナム）  
広報活動、出願書類の確認、問合せ対応



## ASEAN奨学生の出願資格と条件

⑧

1. ASEAN 諸国のうち次のいずれかの国籍を持つこと。日本との二重国籍を除く。  
ベトナム、タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、カンボジア、  
ミャンマー、ラオス 8カ国
2. 高校卒業後1年未満の者
3. 日本語能力  
別科コース：「日本語能力試験（JLPT）」N4 または N3 に合格している者  
学部コース：留学生入試 C 方式入試に合格し、「日本語能力試験（JLPT）」  
N2 または N1 に合格している者。
4. 高等学校の学業成績が良好である者。母語、英語、数学の科目が上位の評価を得ている者。



ます。別科コースでの採用がほとんどですが、マレーシアの中華系高校を卒業し、すでに N2 以上を持っている方が数名、学部コースで採用されているケースもあります。また、成績優秀者を採用するということで、母国語、英語、数学を中心とした高校の成績を、書類選考で重視しています。

奨学生の指定宿舎ですが、大学からも最寄り駅から7、8分という、ちょうど中間のところにあるシェアハウスを部分的に借り上げて、奨学生に住んでもらっています。1ユニットに4個室あり、リビングやシャワー等を共有で使っていて、こちらの宿舎費を入国後2年間、奨学金で免除しています。

持っていること、また日本との二重国籍を除くという条件を付けさせていただいています。

それから、出資者の意向で、高校を卒業して間もない若い学生を採用したいということで、高校卒業後1年未満の者と設定させていただいています。現在、毎年3月と10月に選考試験を行っていき、国によって卒業時期が異なりますが、高校3年生の時と卒業1年以内の合計2回、選考試験を受けられる機会を設けています。

日本語能力につきましては、別科コースは JLPT の N4、または N3 に合格している者、学部コースに関しては N2、または N1 に合格している者となっています。また、学部コースについては、本学の渡日前外国人留学生入試に合格して、さらに奨学生選考試験に合格した者を採用してい

### 2-4. 奨学生の採用実績

これまでに採用した奨学生の人数推移ですが、2016年から受入れを始めまして、当初は認知度が低かったため、初めの年は3名しか採用できませんでした。その後、徐々に口コミとか SNS とか、それから入学した学生が紹介してくれるなどして、定員を超える応募が来るようになりました。2016年から今年4月の入学生まで、合計106人を採用しています。

続きまして、ASEAN 奨学生の現在の国籍別学部別の在籍人数ですが、採用人数が一番多いのがベトナムで、二番目がタイとなっています。タイは当初、協定校からの推薦のみでしたが、今はクチコミで広がって公募で応募してくる留学生も

⑨

## ASEAN奨学生採用人数推移

	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	
	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	合計
<b>別科</b>	<b>3</b>	<b>9</b>	<b>12</b>	<b>14</b>	休校により合格保留	<b>17</b>	<b>15</b>	<b>15</b>	<b>16</b>	<b>101</b>
ベトナム	1	7	7	7		9	6	8	9	54
タイ	2	2	1	4		3	5	2	3	22
マレーシア	0	0	1	0		2	0	1	0	4
インドネシア	0	0	2	2		2	0	0	2	8
フィリピン	0	0	1	1		0	1	0	2	5
ミャンマー	0	0	0	0		0	1	3	0	4
カンボジア	0	0	0	0	1	2	1	0	4	
<b>学部</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>5</b>
ベトナム	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
マレーシア	0	0	0	0	1	1	0	1	0	3
<b>合計</b>	<b>3</b>	<b>9</b>	<b>13</b>	<b>15</b>	<b>1</b>	<b>18</b>	<b>15</b>	<b>16</b>	<b>16</b>	<b>106</b>



## ASEAN奨学生国籍別・学部別在籍人数

⑩

		経営学部 経営学科				国際関係学部 国際関係学科				国際関係学部 文化コミュニケーション学科				都市創造学部 都市創造学科				留学生 別科	合計
		1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年	1年	2年	3年	4年		
ベトナム	総数	7	3	6		2	3			1	1					1		0	<b>32</b>
	(女)	(5)	(2)	(5)		(1)	(3)			(1)	(1)					(1)		(8)	(27)
タイ	総数	1		2		1				3	1			1	1			3	<b>13</b>
	(女)	(1)		(2)		(1)				(2)	(1)			(1)				(3)	(11)
インドネシア	総数			1			1											2	<b>4</b>
	(女)						(1)											(1)	(2)
フィリピン	総数									1								2	<b>3</b>
	(女)																		
マレーシア	総数	1		1							1	1		1					<b>5</b>
	(女)	(1)		(1)									(1)						(3)
カンボジア	総数				1	2										1			<b>4</b>
	(女)					(2)													(2)
ミャンマー	総数	2				1							1						<b>4</b>
	(女)	(1)				(1)							(1)						(1)
<b>合計</b>	<b>総数</b>	<b>11</b>	<b>3</b>	<b>9</b>		<b>1</b>	<b>6</b>	<b>4</b>		<b>1</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>2</b>	<b>2</b>		<b>16</b>	<b>65</b>
	(女)	(8)	(2)	(8)		(5)	(4)			(1)	(3)	(1)	(1)	(2)		(1)		(12)	(48)



徐々に増えています。フィリピンでは日本語を勉強している高校生を探すのが大変で、リクルートには苦労しました。しかし、本学非常勤講師の紹介でミンダナオ島のダバオにある日系人会国際高校と縁ができて、そこから出願してきた学生を、これまで採用しております。年によって違いますが、学部では経営学部や国際関係学部の人気

高いという状況です。

### 2-5. 別科から学部まで一貫した就職支援 —ASEAN 留学生ジャパンプログラム—

この奨学金に付随しまして、就職支援を主な目的として、ASEAN 留学生ジャパンプログラムを開設しています。留学生別科から学部4年までの

## ASEAN-JAPANプログラム

- 【5年間一貫の専用カリキュラムを編成】**  
 ★ビジネスシーンで通用する日本語能力の養成  
 ★日本のビジネス文化を含む日本事情の十分な知識と理解  
 ★企業で活躍するために必要な知識と外国語能力の獲得  
 ★企業・自治体での就業体験などによる社会人基礎力の涵養

留学生別科で1年間集中的に日本語を学び、学内推薦入試で合格した者は、希望する学部に入學する。日本語教育に加え、教養教育と専門教育を通じて、基本的な知識・技能を修得し、本プログラムで社会人基礎力を身につける。

	日本語教育	教養教育 (キャリア教育・英語教育)	専門教育
留学生別科	「日本語」 入学時・N4・N2合格	「日本事情」「英語」	-
学部1年	「日本語」基礎～中級 到達目標：N2合格	基礎数理など、SP1関係の就活試験に連携役立つ教養科目の履修を推奨＆日本語および英語力など強化	各学部のゼミナール・演習参加は原則として必修。プログラムの人材育成段階に沿って、各学部で推奨された専門教育科目を履修
学部2年	「日本語」中級～上級	「特約・イベント」 その他各学部学科で開設する「イベント」関連の科目を履修し、寄付企業を中心とした企業訪問（1日）を実施	
学部3年	「ジャパン・スタディーズ1」	夏季休暇を利用した寄付企業を中心としたインターンシップを実施	
学部4年	「ジャパン・スタディーズ2」 到達目標：N1合格	企業人のオムニバス講義などを受講	



一貫したカリキュラム編成で、ビジネスシーンで通用する日本語能力の養成とか、日本事情の知識と理解ですとか、履歴書の書き方、エントリーシートの書き方、面接のポイントなども教える授業を行っています。基本的には、留学生別科で一年間集中的に日本語を勉強してもらい、その後各学部で教養専門科目を履修しながら、このプログラムを通して社会人基礎力を身につけていくという体制になっています。

日本語レベルでは JLPT の N4、N3 程度で留学生別科に入ってきた学生は、学部1年で N2、卒業までに N1 を目指して勉強していき、N2 または N1 に合格して、一部大学院進学とか帰国する者もおりますけれども、大半の学生が日本の企業に就職している状況です。

ASEAN ジャパンプログラムの一環で、学部3年時にインターンシップを行っていき、その前段階として、学部2年の時には企業訪問を行っていき、ご寄付をいただいている企業

12

### 奨学生の就職支援

#### ・学部2年 - 企業訪問

東急㈱本社、セルリアンタワー東急ホテル、サッポロHD、リコーVicare、渋谷スクランブルスクエア他

#### ・学部3年 - 短期インターンシップ

東急グループ企業、留学生採用企業



を中心に、今まで東急本社やセルリアンタワー東急ホテル、サッポロホールディングスさんなど、企業を訪問させていただいて、事業概要のレクチャーを受けたり、実際に働いているところを見学してきました。学部3年では、短期インターンシップということで、今まで寄付をいただいた企業や、留学生の採用実績がある企業でインターンシップを行っています。コロナの時期は対面で出来なかったため、オンラインで課題を与えて発表するというような形をとっていました。

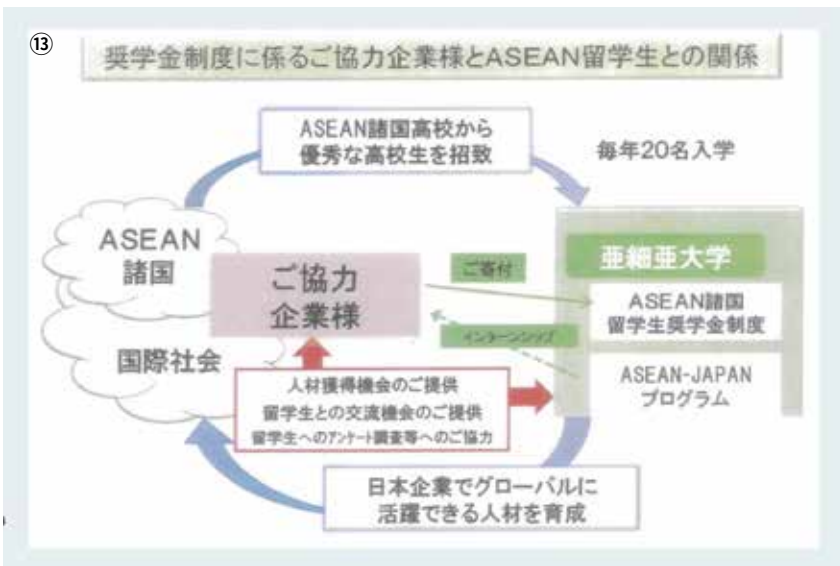
日本語教育と大学学部・大学院の接続・連携―留学生別科の再生は可能か？

払ってのエージェント利用は行なっておりません。このような状況で、大量に出願者を集めるということには苦勞しています。

認定日本語教育機関の申請については、まだ様子見というところです。いくつものハードルがありますので、これをどうクリアしていくかが課題です。今年の秋以降、留学生別

科の今後について、学内での協議が始まる予定です。

以上、事例紹介としてお話をさせていただきました。ありがとうございました。



こちら（シート⑬）は奨学金制度の構想段階での資料で、大学と企業と学生との関係を示した図です。企業から寄付をいただいて大学で奨学生を育て、将来的に奨学生が企業で活躍してもらうことで、寄付企業に恩返しするという考えで、この奨学金制度が開設されました。

### 3. 留学生別科の課題

ここまでが奨学金制度のプログラムの紹介でしたが、この奨学金制度があるおかげで、別科の募集人数もある程度確保できている状況です。しかし、一般募集のリクルートでは、苦戦しております。リクルート活動につきましては、高校訪問ですとか、JASSOやJICA人材育成センター等が主催する留学フェアに参加したり、卒業生に協力してもらい、モンゴル、シンガポール、台湾等で事務所開設して、広報活動を行ったりしています。ベトナムでは、広報活動を中心に業務委託を行なっていますけれども、紹介料を

⑭

#### 留学生別科の課題



- ・一般募集の志願者数減少
- ・学生募集の現状と課題
- ・日本語教育機関の認定申請

申請するための体制づくり  
申請時期等



⑮

#### 学生募集の現状と課題

【入試広報活動】

高校・日本語学校訪問、日本留学フェア参加（JASSO、JICA人材育成センター、民間留学センター等主催）、海外拠点の活用、業者委託他

エージェントは利用していない  
⇒志願者の増加に繋がっていない




# 日本語教育認定法と大学留学生別科の可能性

公益財団法人 アジア学生文化協会 白石 勝己

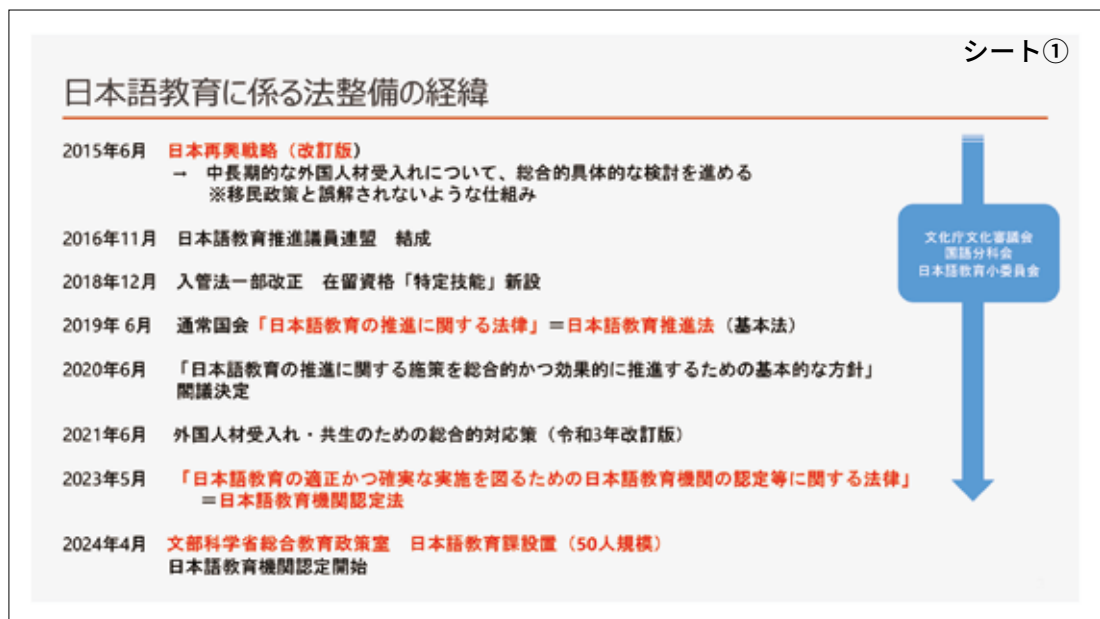
## ■ 日本語関連の法整備に至る経緯

まず最初に、日本語関連の法整備についての経緯を簡単にご説明したいと思います。実は日本政府は移民を入れない方針である、とずっと言っています。しかし、移民とは言わなくても、すでに外国人労働者の数は200万人を超えていて<sup>1</sup>、外国人労働者がいないといろいろなところで日本の産業が回らないような状況になっているとされています。2015年に政府が発表した日本再興戦略に「中長期的な外国人の受け入れについて、総合的な検討を進める」という一文が入れられました。

ただし「移民政策と誤解されないような仕組みを作る」というような文章が付け加えられています。

### 【シート① 日本語教育に係る法整備の経緯】

その翌年、2016年には日本語教育推進議員連盟が超党派で結成されます。議連ができるということは、外国人労働者の受け入れは日本の社会、産業界の要望であるとうことでしょう。外国人をさらに受け入れるには多文化共生社会を見据えなければならぬということ、そのためにはまず日本語教育が不可欠ということになったわけです。2018年には入管法が改正されて外国人労働を受け



1 厚生労働省「外国人雇用状況」の届出状況まとめ（令和5年10月末時点）

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_37084.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_37084.html)

2 内閣府 成長戦略進化のための今後の検討方針 2015年1月 6ページ「外国人材活躍促進のための環境整備」

[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/housin\\_honbun\\_150129.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/housin_honbun_150129.pdf)

②

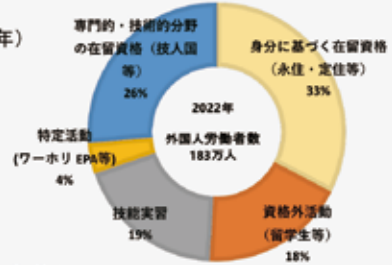
## 日本語教育に係る法整備の背景

## ●日本における人口減少 少子高齢化（労働人口の減少）

- 人手不足で日本の産業が回らない→外国人労働人材移入 日本社会の要望（国家的政策課題として国会・地方議会で取り上げられる）
- 日本語教育議員連盟の結成
- 日本語教育が1丁目1番地（木原誠二前官房副長官 2023年）

## ●日本に滞在する中長期外国人

- 2022年 300万人 2.4%（全人口12,500万人）
- 外国人労働者183万人 2.7%（全労働者6,700万人）



## ●外国人を必要な分野に移入する政策へ転換

- 外国人（移民）を入国させる☑受け入れ国の義務か恩恵か（契約か）
- 受け入れ国の基本的規範と価値観を受入れる☑どの程度まで同化すべきか
- 同化したら対等な成員となる。「彼ら」から「われら」へ☑個人の物差しと共同体の物差し（ユヴァル・ノア・ハラリ 21Lessonより）

入れる受け皿として、業種を特定して在留資格「特定技能」が新設されました。そして2019年には基本法となる「日本語教育の推進に関する法律」<sup>3</sup>が制定されました。続いて具体的な施策の内容についての検討が進められ、2023年に「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定にかかる法律」<sup>4</sup>が制定されました。これを我々は日本語教育機関認定法あるいは単に認定法と呼んでいます。

そうした検討は、文化庁の国語科の中の日本語教育小委員会で行われていたのですが、この法律を運用する場として今年の4月、文部科学省の総合教育政策局の中に新たに日本語教育課が設置されました。この新設された課は50人規模とされていますが、文科省の本省に50人規模の課を設置するというのは、おそらく政府にとって一大イベントなんだろうと思います。このことは、国家として外国人の日本語教育＝多文化

共生社会への移行に取り組むという意思の表れで、現在日本では外国人政策の一大転換が進行中であると言っていいと思います。

## 【シート② 日本語教育に係る法整備の背景】

それでは今どれくらいの外国人が日本にいるのかというと、2022年の数字では300万人で、その内労働人口は180万人となっています。これは日本の全労働人口の2.7%ですが、おそらくこれはすぐに3%を超え、5%になるのにそれほど時間はかからないのではないかと思います。欧米では外国人移民の問題が社会問題化していて、先週イギリス各地で外国人排斥のデモがあり、それに対する抗議デモも起り大きな騒乱になっているというニュースがありました。日本では、そういう状況にならないようにするにはどうしたらいいかということ、考えていなくてはならないと思います。

3 文化庁 日本語教育の推進に関する法律

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka\\_gyosei/shokan\\_horei/other/suishin\\_houritsu/](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/other/suishin_houritsu/)

4 文部科学省 日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律案

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houan/an/detail/mext\\_00042.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/houan/an/detail/mext_00042.html)

③

## 日本語教育機関認定法の概要

- 1 日本語教育機関の文部科学大臣の認定  
留学・就労・生活の3類型 認定日本語教育機関  
(大学の留学生別科も含む)
- 2 認定日本語教育機関の教員資格  
(大学の留学生別科の日本語教員も含む)  
日本語教員試験【第一回11月17日(日)】+実践研修
- 3 日本語教員養成機関の認定 →登録日本語教員養成機関  
→登録実践研修機関

### ■ 日本教育機関認定法の概要

#### 【シート③ 日本語教育機関認定法の概要】

次に日本教育機関認定法の概要についてお話したいと思います。これまで日本学校というと、法務省が定めている基準を満たして法務省から告示を受け、留学ビザを出すことができる（出入国管理局に対し在留資格認定証明書交付申請ができる）学校でした。2023年で833校<sup>5</sup>となっています。それが、今度は文部科学省が、日本語教育を三つの分野、つまり「留学」「就労」「生活」という類型に分け、それぞれの類型ごとに日本語教育機関の認定をすることになりました。ここには先ほどもお二人からお話ががあったように大学の別科も含まれることとなりました。

新たな認定のポイントとして、もう一つは日本

語教育機関の教員の国家資格化があります。今までは日本語教員資格試験として、公益財団法人日本国際教育支援協会（JEES）が実施する日本語教育能力検定試験がありましたが、これは民間試験という位置づけでした。これを、文科省が試験シラバスを定め、実践研修という教壇実習をプラスして、日本語教員を国家資格にすることとなりました<sup>6</sup>。そして大学別科を含む認定日本語教育機関で教える日本語教員は、この日本語教員試験に合格して、文科省に登録した日本語教員でなければいけないということになります。なお、現在別科等で実際に日本語の授業を行っている教員は5年間の経過措置<sup>7</sup>で救済されることになっています。

先ほど三澤さんのお話にもありましたが、大学別科が認定日本語教育機関の認定を取るか取らないかというところでは、認定のハードルが高いと

5 文部科学省「日本語教育機関の認定制度の創設等」より  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/hyouka/kekka/1421037\\_00012.htm#](https://www.mext.go.jp/a_menu/hyouka/kekka/1421037_00012.htm#)

6 文化庁「日本語教育機関認定法における新たな国家資格「登録日本語教員」制度について」  
[www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kyoiku/todofuken\\_kenshu/r5\\_annai/pdf/94008101\\_07.pdf](http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/todofuken_kenshu/r5_annai/pdf/94008101_07.pdf)

7 文化庁「登録日本語教員の資格取得に係る経過措置における日本語教員養成課程等の確認について」  
[https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kyoiku/93964001.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/93964001.html)

# 日本語教育参照枠1

## 全体的な尺度

全体的な尺度		学習時間目安	累積学習時間数	JLPT比較
<b>C2</b> 熟達した言語使用者 幅広い、読んだかいたほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、要約も論点も一貫した方法で再構成できる。自然に、流ちょうかつ正確に自己表現ができ、非常に複雑な状況でも細かい意味の違い、差別を表現できる。		—	—	—
	<b>C1</b> いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができる。言葉を感じることができる。言葉を探しているという印象を与えずに、流ちょうに、また自然に自己表現ができる。社会的、学術的、職業上の目的に合わせた、柔軟な、しかも効果的な言葉遣いができる。複雑な話題について理解で、しっかりした要約の、詳細なテキストを作ることもできる。そのテキストを構成する単語や接続表現、継ぎ表現の用法を詳しくこなせることができる。	350～550時間 467～734時間	1050～1620時間 1392～2162時間	
<b>B2</b> 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑なテキストの主要な内容を理解できる。お互いに理解しないで熟達した日本語話者より取り返しができない流ちょうかつ自然である。かなり汎用な範囲の話題について、明確で詳細なテキストを作ることができる。様々な選択肢について長所や短所を詳しく自分の視点で説明できる。		350～550時間 467～734時間	700～1070時間 925～1428時間	N1 900～1200時間 N2 600時間～800時間
	<b>B1</b> 仕事、学術、職業で求められるような身近な話題について、共通点による話し方であること、主要な内容を理解できる。その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、大抵の事象に対処することができる。身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結び付けられた、詳細のあるテキストを作ることもできる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を述べることができる。		150～220時間 200～294時間	350～520時間 468～694時間
<b>A2</b> ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、娯楽、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現を理解できる。簡単な日常の範囲から、身近で日常の事柄についての情報交換に活用することができる。自分の背景や身の回りのはなはな、単純な必要事項のある程度簡単な簡単な文章で説明できる。		100～150時間 134～200時間	200～300時間 268～400時間	N4 300～400時間
	<b>A1</b> 具体的な状況を意識させるための、よく使われる基本的表現と基本的な言い回しは理解し、思いこえることもある。自分や他人を紹介することができる。どこに住んでいるか、誰と住んでいるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。もし、簡単なやり取り、はっきりとした話をして、助けを求めているなら簡単なやり取りをすることができる。		100～150時間 134～200時間	

**C1.1 (N1) 1000時間前後の積み上げ学習が必要**

【日本語参照枠の報告 22 ページ 全体的尺度】

言われているようですが、私は大学にとっては決してハードルが高いというわけではないと思っています。なぜかという資産面で、その機関の資産がマイナスではない、運営資金がきちんと確保されているということが認定の最初の項目として挙げられています。大学は基本的に自分の不動産とか資産は十分に持っていますので、この部分はクリアされている。施設面ではもちろん、教室、図書館、保健施設などは整備されていますし、日本語教員の方たちは登録日本語教員とならないといけないのですが、教員数も揃っている。一般の日本語教育機関で認定を取ろうとするよりもずっと取りやすいはずだと思っています。ただ、町の日本語学校と一緒に基準で認定を受けることになるとか、その教員と同じ基準で登録日本語教員にならなければならないとかいうことになると、大学、大学教員としてのプライドが傷つけられるという心理的な抵抗感が生ずることは多分にあることだと思います。

## ■ 日本語教育の参照枠について

【シート④ 日本語教育参照枠1 JLPT との学習時間比較】

次に、日本語教育機関認定法でもう一つのポイントになっている「日本語教育の参照枠」<sup>8</sup>のお話をしたいと思います。今回の日本語教育機関の認定制度と並行して、日本語がどの程度できるかというレベルを示す客観的な基準として「日本語教育の参照枠」というのが作られました。日本語教育機関はこの参照枠を参考にして自分の学校の教育課程をどのように構成するか、また設置する課程ごとの到達目標を示さなければならなくなりました。在留管理を仕事とする法務省入管の告示基準から、教育の本丸である文科省に認定が移りますので日本語教育の内容の部分、そして設置課程の目標とする到達レベルはどこかというところを認定の重要なポイントとしたわけです。これまで日本語能力を示す基

8 文化庁 『日本語教育の参照枠 報告』

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93476801\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93476801_01.pdf)

⑤

## 日本語参照枠2 言語活動別習熟度 Can-do

言語活動	理解すること		話すこと		書くこと	
	聞くこと	読むこと	やり取り	発表	書くこと	
C2	高度な内容の日本語を聞き取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を正確に読み取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。
	高度な内容の日本語を聞き取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を正確に読み取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を読み取り、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。
C1	高度な内容の日本語を聞き取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を正確に読み取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を読み取り、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。
	高度な内容の日本語を聞き取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を正確に読み取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を読み取り、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。
B2	高度な内容の日本語を聞き取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を正確に読み取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を読み取り、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。
	高度な内容の日本語を聞き取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を正確に読み取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を読み取り、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。
B1	高度な内容の日本語を聞き取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を正確に読み取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を読み取り、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。
	高度な内容の日本語を聞き取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を正確に読み取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を読み取り、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。
A2	高度な内容の日本語を聞き取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を正確に読み取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を読み取り、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。
	高度な内容の日本語を聞き取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を正確に読み取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を読み取り、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。
A1	高度な内容の日本語を聞き取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を正確に読み取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を読み取り、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。
	高度な内容の日本語を聞き取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を理解し、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を正確に読み取り、主要な内容を理解できる。詳細な内容を読み取り、必要な情報を取り出すことができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。	高度な内容の日本語を聞き取り、必要な情報を取り出すことができる。話し手が話している内容の要約をすることができる。

分野別言語能力記述分文

生活Can do

留学Can do

就労Can do

OOCan do

【言語活動別の熟達度 23 ページ 言語活動別の熟達度】

準としては日本語能力試験（以下 JLPT N5～N1）が尺度として用いられてきたかと思えます。しかし、この試験は文字語彙、読解、ヒアリングの試験で、発話、記述の能力までを示すものではありませんでしたし、N1（学習時間 900 時間～1200 時間程度）を超えた能力を示すこともできませんでした。今回作られた日本語教育参照枠は CEFR（セファール）と呼ばれる「ヨーロッパ言語共通参照枠」（Common European Framework of Reference for Languages）を参考に、文化庁国語課の日本語教育小委員会<sup>9</sup>およびその中の「日本語教育の標準に関するワーキンググループ」で作られたものです。JLPT とのレベルの比較を学習時間の対応で作ってみました。日本語教育参照枠は下から A1 から始まり A2、B1 とレベルが上がり C2 まで 6 段階に分けられています。A1 は 150 時間程度の学習時間ということで、標準的な学習時間設定から見ると JLPT の N5 レベルに相当すると言えらると思いま

す。同じように大雑把には A2 は N4、B1 は N3 というように相関とするとと言えるのではないかと思います。しかし B2 が N2 に対応するかどうかと、もう少し高いレベル、N2 から N1 までかかっているようです。これはあくまで学習時間を基準に比較したのですが、日本語教育参照枠 B2 であらわされている Can-do は「自分の専門分野の技術的な議論も含め、具体的な話題でも抽象的な話題でも複雑なテキストの主要な内容を理解できる」と書かれています。C1 になると「いろいろな種類の高度な内容のかなり長いテキストを理解することができる」となり、C2 になると、ネイティブの日本語話者と同じレベルが設定されています。B2 レベルから C1 レベルまではかなり幅があるので、B2-1、B2-2 とか C1-1、C1-2 とかさらに細かくレベル分けをしていく必要があるかもしれません。シート④は参照枠の「全体的な尺度」ですが、これを言語活動ごとに落とし込んだものが次のシートです。

9 日本語教育の標準に関するワーキンググループ：2019年6月～2020年1月 5回開催

「日本語能力の判定基準」等に関するワーキンググループ：2020年5月～2021年2月 6回開催

⑥

## 外側（日本語学校）から覗き見た大学別科

### 【特徴】

- ・ガバナンス：大学の出島 本科との接続が機能しない
- ・施設：大学施設利用で充実
- ・人事給与：大学本体と同等 教職員の待遇は良い
- ・財政：赤字基調（1年課程全日制 規模的に中途半端）
- ・募集：募集経費が限られる 募集戦略が立たない

### 【別科の有用性】

- ・本科との有効な接続（日本語教育から一貫した高等教育）  
（本科への条件付き入学許可・渡日前入学許可、5年一貫課程）
- ・海外募集活動の強化（留学エージェントの活用）

### 【シート⑤ 日本語参照枠2 言語活動別習熟度 Can-do】

言語活動というと伝統的には「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能と言われてきましたが、日本語教育参照枠では「話す」を「やり取り（Conversation）」と「発表（Presentation）」に分け5技能としています。日本語教育機関の認定申請では、それぞれの学校の教育の目的（ミッション）に従ってこれら5技能で到達目標を定め、カリキュラム・シラバスを組むことが求められています。これについてはいくつか資料が出ていますので、日本語参照枠というキーワードでインターネットで検索して見ていただければと思います<sup>10</sup>。

### ■ 日本語学校から見える大学別科

### 【シート⑥ 外側（日本語学校）から覗き見た大学別科】

留学生に日本語教育を行うという同じ目的を持

つ留学生別科ですが、日本語学校から見ると、二子石さんも三澤さんも言われていたように、大学の別科は大学の出島みたくに見えることがあります。施設的には大学施設を利用できるので充実している。人事・給与・福利厚生などは大学本体と一連なので待遇的に安定している。しかし、その別科単体では財政的にはどうしても赤字基調にならざるを得ないのかもしれませんが。募集活動では現地留学エージェントを使えない。募集経費も限られている。一方で、大学が別科を作る有用性は、学部留学生の日本語教育を自前で実施し、アドミッションポリシーに合った独自の募集、教育をすることができるということだと思います。ただ、別科と本科での連携ができていないと、せっかく別科で募集し日本語を教育した学生でも、良い成績の学生ほど他の大学に流れてしまうなど、ご苦労されているところもあると聞きます。

### 【シート⑦ 別科と本科の接続】

次のシートは、別科と本科がどのように連携

10「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発・普及事業（文部科学省）

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/nihongo\\_kyoiku/mext\\_02799.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/nihongo_kyoiku/mext_02799.html)

⑦

## 別科と本科の接続

### 別科と本科を接続させる方法

- 1 本科の入学試験を受験し合格する【従来方式】
- 2 本科の条件付入学許可を受け別科に入学する【条件付渡日前入学許可】
  - 別科入学時に本科仮入学許可、別科終了時に本科の入学基準をクリアする
  - 日本語以外、別科入学時に渡日前入学許可で本科で合否を決定
- 3 聴講生、科目等履修生、研究生として日本語学習する【渡日前入学許可】
- 4 5年一貫制学部課程 3年一貫性大学院課程【渡日前入学許可】

すれば一体として取り組みになるかを考えてみたものです。私も日本語学校を担当していたとき、いくつかの大学学部との一体化した連携を探ってきたのですが、なかなかうまくいきませんでした。例えば、日本語学校でA大学推薦入学付きで海外募集をし、日本語N1に合格すれば、A大学に入学できるとか。しかし、学生からすればA大学推薦は確保しておいて、B大学もC大学もチャレンジしたい、となる。そのことは、大学別科と本科との間での連携の問題とも共通するところがあるのではないかと思います。この連携を強化していく方法としては2のように別科入学時に本科の仮入学許可を与え、別科で日本語能力があるレベルに達したら正式な入学許可を与える、いわゆる米国などの大学で言うところのコンディショナルアドミッション(Conditional Admission)と同じ考え方です。これだと、先ほど例で挙げた日本語学校のA大学推薦入学付き募集と同じことが起こる可能性があります。

3は聴講生、科目等履修生、研究生などのステイタスで入学させて日本語教育を受け、本科に進むという方式もありましたが、先ほど二子石さん

から説明があったように、この方式で定員外で大量の留学生を受入れ、教育も在留管理も不十分となった大学が出現し、今年度4月には「外国人留学生の適切な受入れ及び在籍管理の徹底等について」という指導通知が文科省から出され、このやり方には各大学は慎重になっていると聞いています。さて、4番目の方法として別科、本科を統合して5年制一貫の教育課程として提供するという方法は可能か、一つの考え方としてご紹介させていただきたいと思います。

その前に、本科入学試験を受験する方法以外、2～4は、すべて「渡日前入学許可」をすることが前提になっています。文科省は留学生30万人計画をすすめるにあたって「渡日前入学許可」を強く推奨し、2002年に日本留学試験<sup>1)</sup>が実施されて以降、海外13か国17都市で実施するようになりましたが、受験者数は増えず、海外ではあまり普及していないという現状があります。それでは、「渡日前入学許可」を実施するためには何が必要か。それは、それぞれの国の中等教育の学業成績や大学入学統一試験を利用することが考えられます。しかし、それには現地の教育制度、大学入学・選抜制度、その国の統一試

⑧

## 日本語教育を含む5年一貫制学部

4年	就職活動	選択科目 必修科目（卒論）
3年	キャリアプログラム インターンシップ	選択科目 必修科目
2年	キャリアプログラム ビジネス日本語	選択科目 必修科目
1年	日本語：6コマ/週×30週 =180コマ（360時限）	総合科目（一般教養）
0年	日本語：13コマ/週×30週=390コマ（780時限）	日本理解： 2コマ/週×30W =60コマ

渡日前入学許可（Conditional Admission）=書類審査による合否判定

験制度やその成績と大学の合否データなど総合的な情報が必要となり、それぞれの国ごとに調査し常にデータをアップデートしておく必要があるということになります。一つの国を調べるだけでも論文が書けるくらいの作業になりますが、この話になると、「外国の教育制度、大学入学資格の判定」という別の話になってしまうので元の話題に戻らせていただきます。

## ■ 日本語教育と留学生就職プログラムを含む5年一貫制学部構想

### 【シート⑧ 日本語教育を含む5年一貫制学部】

シート⑧の図表は、初年次の日本語教育も含めた5年一貫性の課程を設置するというモデルです。一般的に留学生が日本の大学学部で勉強する場合、日本語学習は必須となります。日本語学校で2年間勉強しなければならないのなら、大学学部5年課程の0年次と1年次に日本語を組み込んで、学部教育に接続させる方が合理的ではないか

という考え方です。0年次の「日本事情」で留学ビザ、在留カードとマイナンバーカード、アルバイト、健康保険など行政手続や公共サービスの仕組みなどを含めた生活オリエンテーションを授業として組み込み、日本語授業とともに単位化していく。このモデルでは学習時間数的には0年次で780単位時間、1年次で360単位時間設定していて、到達目標が日本語教育参照枠B2（JLPT N2～N1）以上を求められる認定日本語教育機関に必要な時間数をクリアする形になっています。さらに、2年次、3年次ではビジネス日本語やインターンシップを組み込み就職活動に直結させるという、かなり欲張りなモデルです。図に書けば1枚で済みますが、現実的に大学でこのような課程を作るのはそんなに簡単じゃないよ、ということですね。「絵に描いた餅」とはこのことですが、まず絵に描かけないと想像も構想もできないということだと思います。こうすると、学費も0年次でも同一学費を設定できるようになる（？）と思いますがどうでしょうか。

⑨

## 日本語教育を含む3年制大学院修士課程

	就職活動（特定活動・就活）	
2年	キャリアプログラム インターンシップ	修論・特定課題研究
1年	キャリアプログラム ビジネス日本語	単位取得
0年	日本語：13コマ/週×30週＝390コマ（780時限）	日本理解： 2コマ/週×30W ＝60コマ

渡日前入学許可（Conditional Admission）＝書類審査による合否判定  
研究生制度による修士課程前の受け入れは実施されている

## 【シート⑨ 日本語教育を含む3年制大学院修士課程】

シート⑨は、大学院修士課程の前に日本語教育を組み込んだものです。留学生が大学院の修士課程に入学する場合、研究生として研究室に所属する形があると思います。しかし、大学院で日本語教育を組み込んで3年一貫課程にするというのは、その性質上ちょっと違和感があるかもしれませんね。一方、留学生の場合修士課程修了後に就職を目指すということが普通になっていると聞きます。特に英語で研究を行った場合などは、日本語がネックになって就職活動が不調に終わるということも多いのではないかと思います。そのようなことを避けるため、就職を目指す修士課程入学の留学生には事前の集中的な日本語学習が必要ではないか。さらに言えば、2年次に論文を仕上げながらの就職活動は難しいと思うので、修士修了後に特定活動（就職活動）の選択肢をあらかじめ組み込むことも考えられると思いますがいかがでしょう。就職促進プログラムを組み込んで、修士

学位と一緒にビジネス・スキルズ・ディプロマも取得できるコースとか。これも、大学の外の人間が勝手に考えた「絵に描いた餅」です。

アジア地域、日本周辺の国の社会状況や高等教育の環境がどんどん変化し、日本の大学学部、大学院の留学生受入れ状況もそのトレンドが大きく動いているように思います。日本自体も積極的に留学生を高度人材として社会に取り込もうとする方向で政策が展開されています。しかし、以前から変わらず、企業側の留学生採用上の一番の課題は「日本語能力が不十分」ということになっています。文科省も「留学生就職促進プログラム」を展開して大学を積極的に後押ししているということもあり、今回の日本語教育認定をテコに大学別科での日本語教育についてはより効果的で根本的な取り組みが求められるのではないかと思います。私たちの今回のセッションが多少でもお役に立つところがあれば、と願っております。

12 就職未来研究所「外国人留学生の採用状況等について」

[https://shushokumirai.recruit.co.jp/wp-content/uploads/2024/08/report\\_240830.pdf](https://shushokumirai.recruit.co.jp/wp-content/uploads/2024/08/report_240830.pdf)

# 新星学寮での生活

(第15回)

新星学寮はアジア学生文化協会の創設者である穂積五一先生が1932年に再興した至軒寮を戦後(1945年)改称したものです。以来日本とアジアの青年学生が自治的な共同生活を通じ、相互理解を深め友愛を培う場として維持されてきました。しかし老朽化が進んだため、2018年に耐震性・耐火性を備えた建物に建て直されました。建替えに当ってはOB・OG・関係者の皆様から多大なるご協力をいただき、2019年4月に新入寮生を集め新たなスタートを切ることができました。本コーナーでは寮生へのインタビューを中心に新星学寮の今をお伝えします。

## 韓国人寮生に聞く新星学寮の生活

ソン ドンギョ  
宋 東奎さん (韓国)

東京大学大学院人文社会系研究科 インド哲学・仏教学研究室 (博士課程1年)

今回は昨年春に入寮し、既に寮長も経験した韓国出身の宋さんに、専門とする仏教哲学のことや、寮長として気を配ったこと、宋さんが思う新星学寮のあり方などについて話を聞きました。

—— 宋さんは大学まで仏教とは無縁の生活をしていたそうですが、どのようなきっかけで仏教哲学に興味を持ったのでしょうか。

僕は小さい時から本が大好きで、よく図書館に通っていたのですが、高校時代からは西洋哲学に興味を持ち、関連の本を読み、勉強を続けてきました。図書館の書架で、その哲学の隣が仏教のコーナーだったのですが、たまたまそこにあったきれいな装丁に惹かれて手に取った本が法句經ほっくぎょうの解説

書だったんです。読んでみると、心理哲学のような内容で面白いなって。当時読んでいたウィトゲンシュタイン(ドイツの言語哲学者)の本が難しく、頭が痛い思いをしていただけに、余計素直に頭に入ってきたのかもしれない。それで、もっと仏教のことを学んでみたいと思い、様々な仏教思想の本を手取るようになりました。

—— 仏門に入りたいというのではなく、仏教の理念や思想といったところに興味を持ったんですね。

そうですね。実は、本を通じて仏教の魅力に触れた後、一生これを勉強したいという気持ちになり、山の上にあるお寺を訪ねたのですが、お坊さ

んから「おまえは修行をしたいのではなくて、仏教の思想が好きなんだ。まずは大学に行って専門的に学びなさい」と諭されました。お坊さんは僕の質問攻めに「迷惑なヤツが来たなあ」と思ったのかもしれませんが（笑）。それで、ソウルで仏教学が学べる大学に入ったんです。

—— 宋さんは、寮生に仏教の良さを伝えることがあるそうですね。仏教が私たちの生活に役立つ面などを教えてください。

仏教には学問伝統と、修行伝統の二つがあって、それぞれ「智慧」と「禪定」を目指します。禪定の修行にもいろいろな種類があって、東アジアでは看話禪かんわぜんとって、「無」という言葉（「話頭」）をツールに、煩惱を断ち切る修行がよく行われます。「何をしたい、何が欲しい」という煩惱が頭に湧いてきたら、「無」に集中し煩惱を消し去ります。

もう一つは、サマタ瞑想（呼吸など一つの対象に集中する瞑想）とヴィパッサナー瞑想（心の中に浮かんでくるすべての考えをただ観察する瞑想）という主に東南アジアで行われている修行で、これは自らの五感（視、聴、嗅、味、触）に気づき、僕たちの思考を五感のレベルに戻して、煩惱を断ち切るというものです。呼吸に集中して心を静め、音や皮膚の感覚など、自分の身体感覚に気づくことで、五感をありのままに受け入れ、それに付随する解釈（煩惱）を断ち切るということです。

日常生活では、僕たちはいろいろな欲や感情にとらわれ、それによって間違っただけの考えや行動をしてしまい、苦しむことがあります。これを防ぐために、まず心を落ち着け、集中する練習が必要です。そして、自分がどのように苦しみを生み出しているのかをよく観察して、苦しみが始まる前にその悪い流れを止めることが大切です。これが、仏教で言う「輪廻の苦しみから解脱する」方法であると僕は思っています。欲や感情を静めた後は、



東文学部校舎にある石像と

どう生きるべきかをしっかり学んでいくことが求められます。

—— 普段煩惱のままに生きている身としては大いに学びたいところですが、その境地に達するのは簡単ではなさそうです。

修行とまではいかない瞑想だけでも、様々な効果が期待できます。今、指導教官が科研（科学研究費助成事業）で、瞑想の効果を科学的に証明するという研究をしています。それが証明できたら、もっと人々の生活に瞑想が入り込み、様々な問題解決に役立つはずですが、その証明が難しいんですね。瞑想中に13の身体情報を測定しどのような変化が起きるのかを調べているのですが、僕もその実験に参加しています。ドイツでは、瞑想して一月後の表情が以前より穏やかになったという研究結果があるのですが、その結果も証明しようとしています。

—— 宋さんがいつも穏やかな笑顔を浮かべているのは瞑想のおかげかもしれませんね。では次に、留学先に日本を選んだ理由を教えてください。

まず、仏教学の研究が世界で一番進んでいるか



韓国の寺院で修行に励む宋さん（2020年1月）



らです。その理由の一つは、仏教の古典語であるサンスクリット語と漢文の両方を卓越したレベルで読める環境が、世界中で日本にしかないからです。多くの仏教文献は欧米語の祖先とも言われるサンスクリット語で書かれていますから、その点では欧米のほうが良いのではと思われませんが、サンスクリット語は日本へも明治時代には入ってきていて、西洋とそん色のない、むしろ進んだ研究が行われています。加えて日本は漢字圏ですから漢文にも強く、実際に古い仏教の漢文文献が保存されている場所も日本だけです。そのため、多くの仏教資料を研究するための土壌が他国よりも整っているんです。

—— さて、新星学寮への入寮は昨年（2023年）の4月とのことですが、入寮までのことを教えてくださいませんか。

僕は文部科学省の奨学生として、2000年4月

に来日する予定だったのですが、その少し前にコロナ禍による入国制限が始まってしまい、来日が12月に遅れました。そして東大のインターナショナルロッジという国際学生寮に入ったのですが、コロナ禍で密になることは禁止ですから、他の学生との交流はほとんどありませんでした。ロッジに宿泊できるのは1年間だけで、2022年からはアパートで一人暮らしを始めたのですが、スタートがそんな感じでしたから、日本人や他国の留学生と交流を持ちたいという気持ちはずっと持っていました。そんな時、新星に入るために準備をしていた韓国人に寮のことを紹介されたんです。その時の募集ではコロナ禍で空いていた部屋が一気に埋まったのですが、運良く最後の1部屋に滑り込むことが出来ました。

—— 入寮前、寮の歴史などに関することは聞いていましたか。

入寮時はまったく知りませんでした。昨年後半に寮長をやらせてもらったのですが、当時寮が直面していた問題のことなどでABKや寮のOBの方々にお会いする機会があり、その時寮の歴史についても詳しくうかがいました。そこで今起きている問題は寮の歴史や伝統に関わることが起因しているのではないかと思ったんです。なぜ寮がこういう形で運営されていて、それがかつてどんな効果を生んでいたのか。それを知った上で、今ある問題を考え解決できないかと思いました。

また、寮生、世話人、OBなど、寮に関わる人たちそれぞれに寮に対する考え方があり、今の問題を解決するためにはそれぞれが考えている寮の概念を理解し共有する必要があると思いました。

—— 寮の伝統のようなものに関する認識のずれから、問題が生まれていたということですね。

今回、ばらばらだったそれぞれの認識について



古こ寫しゃ本ほん調てん査さで訪とれた滋し賀や県けん西せい教きやう寺じで（2023年5月）



中国で行われた学会で発表（2024年8月）

て、ある程度共有することができたと思うのですが、結論が出たわけではありません。だからお互いがどんな思いを持っているのかを聞く機会というのはこれからも継続していかなければいけないと思います。

—— 寮に入って、そんな苦勞が待っているとは思わなかったのではないですか。

寮長が僕の唯一の仕事ならいいのですが、学生として、研究など他の役割もこなさなければなりませんから、時間を厳しく管理しなければならないということになりました。本当に、寮長という仕事がここまでエネルギーの要るものだとは思っていませんでした（笑）。寮長の任期は半年で短いという人もいますが、僕のスタイルが正解だとは思っていないので、寮長が替わってまた別の視点からこうした話し合いを持てるのであれば、それはいいことなのではと思います。

—— では、寮に入って良かったと思えるのはどんな時ですか。

僕は他の学生との交流を求めてこの寮に入ってきたので、その点ではとても満足しています。まず部屋を出たらすぐに誰かに会える。食事会では、普段あまり会えない人と最近の様子を訊ね合えますし、そうした交流を持てる環境が本当に気に入っています。

—— 寮会や食事会など交流の場にみんなが揃うように、気を使っていることなどはありますか。

そこも寮長の役割になるのかなと思うのですが、まず交流の場に出たくなる雰囲気普段から作るのが大事だと思います。寮会でも自分の発言に意味があって、何かが変わる可能性があるということがわかれば、参加して発言したいと思えますよね。そのために出来るだけ普段からコミュニケーションをとるようにして、それぞれがどんな気持ちでいるのか、どんな意見を持っているのかということを知っておくようにしました。食事会の場合は食べられない物や好きな料理、スケジュールなどについて事前に話し合い、みんなが興味を持って参加できるように工夫するなど、単純なことですが、そういった積み重ねが大切だと思います。

—— 寮長時代は新しい行事の企画などもしたのですか。



2024年2月の北海道旅行で（左二人目）

その月に誕生日を迎える人がいたら、寮会の前に誕生日パーティーを行うようにしました。また、寮のメンバー5人以上が参加する食事会などに、寮費から一人あたり500円を支援するという制度を作りました。その結果、みんなが集まる回数は確実に増えましたね。

—— これまでは寮生同士の対立があったという話もありました。

以前は対立があったと聞いたことはありますが、僕が入寮してからは大きな争いはなかったように思います。僕はみんなが仲良くなるのが大切だと思っていて、仲が良い共同体では問題解決が楽になるという信念を持っています。寮生は競争相手ではなくて、一つ屋根の下に住んでいる家族のようなものなんです。ですから普段交流の機会が多く相手のことを知っていれば誤解は生じません。不満があっても柔らかい雰囲気の中で発言できますし、お互い譲歩し合いながら解決策を考

えることができます。それは今回この寮に来て実践をしてみて、本当に大事なことだと実感しました。トラブルを事前に防ぐという側面はもちろんですが、仮に何か事件が起きたとき、その事実に加えて誰かを疑ったり、悪意を持って接したりすることには発展しません。だからお互いの距離が近い、関係の深い寮にしていきたいというのが僕の考え方です。

—— 自治寮ということについてはどう思いますか。

自治寮というのは、学生みんなが活発に寮の運営に関わるのが前提で、今寮で何が起っているのかを知り、考えながら生活していく場ですよ。そういう意味では小さな民主主義社会だと思うのですが、民主主義の前提はみんながある程度常識人であり、その社会で自分が何をしているのか、何をしなければいけないのかといったことをしっかりと認識していることにあると思います。一部のメンバーの判断だけで運営されていたら、自治寮とは言えなくなってしまうのではないのでしょうか。

—— そういう意味では、共同体への参加意識の高い人が寮に集まってくるのが理想ですね。

そこで今課題に思っているのは、寮生の募集に対して応募者が少ないということです。ここ数年は、空室を無くしたいという思いもあって、応募者全員を受け入れているようなところがありました。寮会で「彼はこの面が心配けどどうですか？」と提案しても、「今の自分たちも完璧じゃないよね」となってしまう。みんな優しいから断りたくないという気持ちはわかるのですが、交流を大切にす寮ですから、それが苦痛ではない人に入って欲しい。

人と一緒に過ごすことに慣れていて、それを楽

しめる人に入ってもらった方が、新入寮生も僕たちもお互い幸せだと思うんです。ただし応募者が少なれば人選の余裕は生まれませんから、予算面を考えれば、よほど酷い人でない限り合格にしたほうがいい、となってしまう。だからまずは応募者を増やすことが大切だと思っています。そして、入寮選考の時、気になることが少しでもあれば、みんな活発に共有してみようと寮会では提案しました。

——では、新星学寮とはどんな寮だと言えますか。

新星学寮は、構成員同士の交流が活発で、非常に親しい関係を築いている寮です。寮に入ってから、故郷を離れて一人だと感じたことが一度もないほど、いつもお互いに親切に声をかけ合う文化が自慢ではないかと思います。仏教の時間論では、過去や未来が今この瞬間に溶け込んでいると言います。過去の先輩たちが今でも仲良く過ごし、寮を大切にしている姿を見ると、当時の雰囲気伝わってきます。現在の寮の雰囲気を見ていると、皆卒業後も活発に連絡を取り合わなくても、いつ会っても寮を懐かしく思い出しながら、楽しくおしゃべりできる未来が見えます。無理に寮の理想像を作り上げるのではなく、この流れが続く寮であってほしいと思います。

今年の冬は寮が再スタート後の5年で初めて、寮生15人全員が参加する北海道旅行を行いました。学校行事ならありますが、多国籍の寮生15人全員が自らの意思で企画を立てて旅行に出かけるという経験はそうはできないと思います。北海道では雪で細くなった道を一列になって歩いたのですが、一番先頭で振り向くと、最後尾の人がずっと遠くに見える。ああ、こんなにたくさんの仲間であられたんだって、感慨深いものがありました。そういう濃い交流ができるのが新星学寮だと思います。



「日本を変えたすごい僧侶図鑑」

袁輪 顕量（編著）、東京大学仏教青年会（著）  
産業編集センター（版）2024年9月発売 /

編著の袁輪先生は宋さんの指導教官。東大仏教青年会で学術部長を務める宋さんが平安末期の二人の僧侶「良源」と「源信」の執筆を担当している。

——将来の夢や目標があれば教えてください。

僕は5年満期までこの寮にいると思います。人文系で博士を取るのは大変ですから、4年目、5年目がんばって論文を書き上げて、卒業と同時に満期退寮できるのが理想的だと思っています。将来の夢についてですが、僕はすでに夢見ていた生活を送っています。好きな宗教や思想を研究しながら、周りの人たちと楽しく過ごすことが僕の人生の目標です。今の生活が安定して続けられるように、これからも努力していきたいと思っています。

——これからも仏様のように、寮生を見守っていただければと思います。ありがとうございました。

新星学寮ブログ（募集案内等）  
<https://www.shinsei.haus>

# 東京とイスタンブール 混雑する街の違い

## サファン グル (Saffan GUL) ～トルコ

早稲田文理専門学校 IT カレッジ AI デザイン学科

日本語を覚えたのは高校生になって日本のアニメを字幕で見えるようになってからです。だんだんと耳が慣れて、よく出てくるセリフの意味がわかるようになっていきました。私がまず夢中になったのは「NARUTO」ですが、その後見た「進撃の巨人」は世界観が凄くて大人も楽しめる。「日本のアニメはめっちゃ面白いなあ」って思いましたね。ただ、私が好きな作品は日本の文化や社会を映し出しているようなものではありませんでしたから、そこから日本に行きたいとか、日本語を学びたいという思いは生まれませんでした。

海外留学を意識するようになったのは、高校最後の年に参加した国際交流プロジェクトで、ラトビアに2週間の短期留学をしたことでした。トルコとは異なる街の雰囲気は

もちろん、小学生から高校生までが同じ校舎で学ぶ学校のシステムなどが新鮮でしたし、様々な国から来ている学生達とお互いの勉強方法について話したり、国へのプレゼントを何にしようか相談し



合ったり、そうした国際交流の経験はとても刺激的で楽しいものでした。だからいつかもう一度、今度はもっと本格的に留学をしたいと思ったんです。

高校卒業後は親や先生の勧めで、医療系の大学に入学しました。私は子どもの頃からパソコンが好きだったので、自分ではIT系の学校に行きたいと思っていたのですが、両親から「おまえは親切で責任感が強いから、それを生かせる仕事に就くような勉強をしたほうがいい」と勧められて、自分も人の為になれるのならと、看護の勉強をすることにしました。

そして解剖学を学んだり、実際の手術の様子を見学したりと、勉強は面白かったのですが、海外留学したいという思いはずっと持ち続けていました。そして大学に海外留学のための2年間の休学制度があることを知り、もし海外に行っても失敗しても、2年以内なら学校に戻れる、それならば2年生が終わるタイミングで行ってみようと思いました。

トルコ人の留学先というと、アメリカやドイツが多いのですが、自分はずっと違うところ、人とは異なる経験をしたかと思っていました。それでその国に暮らすトルコ人や外国人の意見を見てみようと、ブログやYouTubeを検索しました。「トルコ人にとって住みやすい国、住みにくい国」「人間関係を築きやすい国」「気候が安定している国」「留学中に仕事ができる国」…

いろいろなキーワードで世界中の国を検討し、最終的に、もともと関心があった日本への興味が高まりました。

「日本が向いている人、そうでない人」といった内容のビデオを見ると、「外国人が日本人と仲良くなるのは簡単ではない」「東京では人が倒れていても誰も助けない」…といったネガティブな声もたくさんありましたが、自分の積極的で明るい性格を考えた時に、そうした日本のネガティブな面は問題にはならないなと思ったんです。

それに語学学校を終えた後、進学をすることを考えた場合、国によっては高い言語レベルの証明が課せられているのですが、日本は言語レベルに応じて学校やコースを選べるということもポイントでした。

そして何よりも、安全だということ。両親、特に母はその点を一番心配して自分でも調べていたようですが、最終的に「日本ならば」、ということでOKをもらいました。

今は私のようにインターネット、特にYouTubeで海外留学の情報を集める人が増えていますが、一つのビデオの情報は一人の意見だということをおぼろげに忘れてはいけません。そこに住んでどう感じるかは人それぞれであり、様々な情報から自分の目的や性格、予算などを考えて、総合的に決めることが大切だと思います。

実際に東京に来て思ったのは、予想以上に人が多いということです。私はヨーロッパ

で最も混雑していると言われていたイスタンブールから来ました。それでも東京の第一印象は「混雑しているなあ」でした。でも感心したのはこんなに人が多いのに電車などの公共交通機関がきちんと時間通りに動いているということです。また、駅員が優しいというのも印象的でした。イスタンブールでは発車時刻になると、「次の電車を待ちなさい」とはっきり命令されますから、無理に乗ろうとする人はいません。日本の駅員さんの場合は「お願い」ですから、時々混んでいる車内に無理に乗ろうとする人がいる。そもそもトルコでは混雑したところではスリにあう可能性が高いので、警戒してわざわざ人



短期留学をしたラトビアで



留学生仲間との富士登山

混みの中に入って行くようなことはしません。同じように人が多い街ですが、そうしたところに東京とイスタンブールの違いを感じます。

日本は公式、非公式を含めてルールが多いので、それを面倒に感じる外国人もいると思います。私の場合は、どんなルールでもそれが存在する意味が理解できれば従うことに抵抗感のないタイプでしたから、すぐに慣れました。むしろルールがあることで便利になり、秩序も保たれていると感じることが多いです。

外国人の場合は、電車の中でのルール、携帯電話の通話禁止とかカバンの持ち方といったことに違和感を感じる人もいるようですが、それも混雑した車内で快適に過ごすための工夫ですね。日本人は通勤時間が長かったり残業が多かったりしますから、電

車の中で寝ている人が大勢います。もし隣の人が大声で話していたり、音楽を流していたりしたら、ゆっくり寝てはいられませんから、やっぱり必要なルールなんです。

一方で、少し面倒だなと感じるのは、行政の手続きなどで、窓口の一元化やオンライン化が思ったほど進んでいないということです。同じ情報を記入しなければいけないことが何度もあったり、あちこちの窓口に行かなければならなかったりしますから、そこはトルコのほうが進んでいるのではと感じます。

また、日本人の友達を見ると、家族との関係が少し希薄に感じますね。私の家は大家族ですが、親戚も含めていつもお互いが連絡を取り合っていますし、SNSでも繋がっています。だから誰が今、どこで何をしているのかを、お互いが知っていて、誰かに

何か問題が起きれば、みんなで助け合います。そうしたところはトルコ人のいいところだと思います。

日本語学校に入学した1年目はコロナ禍の影響で、なかなかクラスメート全員と顔を合わせることができず、ストレスを感じることもありました。でも平常時に戻ったあとは徐々にみんなの仲が深まり、授業中だけでなく、放課後も休日も、共に遊びに行けるような仲の良い関係が築けました。

クラスにトルコ人は私一人で、英語を話さない人も多かったので、おかげで日本語力もどんどん上達し、トルコに戻ろうかと迷う間も無く、自然と日本で進学することを決めました。

そして、今は専門学校でAIの勉強をしています。もともとパソコンが好きで、それを使った仕事がしたいと思っていましたから、勉強は楽しく、興味を持って取り組んでいます。

卒業後は混雑した東京を離れて、富士山が見えるような自然豊かな土地で就職し、IT関係の仕事ができればと思っています。そして将来は、世界中旅をしながらどこにいても仕事ができるという、そんな人生もいいなあと考えています。

バンコクの泰日工業大学で活躍するスタッフ&先生によるリレーエッセイ

# 泰日工業大学 (TNI) 奮闘記

水谷 光一

## ⑤ ミャンマー人留学生にインタビュー

2018年からスタートした泰日工業大学・国際学院 (TNI インターナショナルカレッジ = TNIC) は、今年2024年6月の新学期に初めてミャンマー国籍の新入生を10名迎えた。その中の二人、OAK SOE (オーク・ソー) さんと PAING MYO HAN KYAW (パイン・ミョ・ハン・キョー) さんに話を聞いた。

### ★ オーク ソーさん

オークさんは2005年ヤンゴン生まれの19歳。今年TNICのDSA (Data Science and Artificial Intelligence = データサイエンス・人工知能) コースに入学した。ご両親ともに元日本留学生で、日本で出会い結婚をしたそう。現在はミャンマーで日本語学校を運営している。インタビューはすべてオークさんの流暢な日本語で行った。オークさんは日本語能力試験N3に合格しているが、おそらく楽にN2の実力はあるように思う。

#### —— 日本との関係を教えてもらえますか。

生まれて半年の時、両親と一緒に日本に転居して約7年住みました。当時祖母と伯父夫婦が住む家が東京・中野にあり、そこに同居して保育園から小学校1年生まで、日本人と同じ学校に通いました。家の中ではミャンマー語でしたが、外では日本語で過していましたから、日本語は自然と上達していきました。7歳の時ミャンマーに戻りましたが、その後も年2、3回、両親と一緒に来日し、2～3カ月を日本で過ごしました。ミャンマーでは公立の小学校には行かず、フリースクールのよ

うなところで英語を使って勉強をしていました。今でも日本には医師をしている伯父夫婦が住んでいます。祖母は2019年に亡くなりました。

#### —— TNIC に入学するまでの経緯を教えてください。

中高は、ヤンゴンに数多くある英語で勉強する公立の学校に通いました。進学も国内ですることを考えていたのですが、ミャンマー国内の情勢が悪くなり、どうしようかと迷っていた時、タイに住んでいる知人が英語で学べ、日本語の授業もあるTNICのことを調べて教えてくれました。そして、今年の3月に一人でタイに来てTNICを見学、その後両親や知人と相談して面接を受け、入学を決めました。

#### —— 授業についてはどうですか。

情報通信関係については、経験も知識もありませんでした。それでも志望をDSAコースにした理由は、コーディング (プログラミング) やソフトウェア開発に興味があったことと、将来の仕事の選択肢を考えたときに有利だと思ったからです。まだ授業が始まってから3カ月ですが、特に



インタビューに答えるオーク君



この日、初めて訪れた大学の図書館で

難しいとは感じてはいません。中にはかなり高度な内容の授業もありますが、担当の先生は親切に指導してくれるので、わからなくて困ることはありません。実は最初、タイの有名な国立大学も検討したのですが、今でも TNIC を選んでよかったと思っています。

#### ——プライベートについて教えてもらえますか。

今は知人に紹介してもらった大学近くのアパートに一人暮らしです。毎月両親から送金をしてもらっているので、生活費に困ることはなく、アルバイトもしていません。食事は大学の食堂で食べたり、そこでテイクアウトにしてもらったりしています。部屋には炊飯器がありますから、お米を炊いたり、煮物を作ったりはできます。同じ東南アジアで食べ物は似ていますから、食事に困ることはないですね。

今のところ、学校以外ではあまり外に出かけることはなく、のんびりと部屋で過ごす時間が気に入っています。大学では私以外にもミャンマー人がいますし、ほかにも日本や西アジアなど、様々な国からの留学生がいますから、彼らと話すのが毎日の楽しみです。

インタビュー後、TNIC 校舎2階の図書館に案内した。「安倍晋三（元総理）寄贈文庫」など日本語の本に興味深く眺めている姿が印象的だった。

#### ★ パイン ミョ ハン キョーさん

パインさんは2001年、ヤンゴン生まれの23歳。雑貨店を営むご両親のもとに育ち、高校卒業後はヤンゴン外国語大学日本語学科に入学した。しかしミャンマーの国内情勢の悪化により、3年生の時に大学は閉鎖、現地でしばらく仕事をしたあと、TNICのDSAコースに勉学の間を移した。

#### ——日本語を学ぼうと思ったきっかけと、TNIC入学までのことを教えてください。

高校までは全く日本語を勉強したことはなかったのですが、子供のころから日本のマンガ・アニメが好きだったので、ヤンゴン外国語大学の日本語学科に入学しました。でも3年に進学して間もなく、国の情勢が不安定になり大学も閉鎖になってしまったため、勉強を途中で断念せざるをえませんでした。その後は多少でも日本語ができたおかげで、日本に技能実習生や特定技能生を送り出す会社でしばらく働きました。会社では毎月日本から来るお客さんのアテンドやホテル予約、観光案内をしたり、書類の翻訳をしていました。

毎日忙しい日々を送っていましたが、日本語の勉強を続けたいと思っていましたし、大学をきちんと卒業して高度な仕事に従事したいと思っていました。それで、日本とタイの大学を中心に留学の可能性を探していましたが、日本の大学に行く



笑顔も交えて質問に答えるパイン君



タイ人同級生と。学生が自由に使えるラウンジで

には費用も時間もかかりそうでした。それならタイの大学へと考えていた時に、タイの大学が30校ほど参加する留学フェアがヤンゴンであるという情報を聞き、参加してみることにしたんです。

そこで出会ったのが TNIC のエガシット先生で、とてもわかりやすい説明をしてくれて、私の質問にも優しく丁寧に答えてくれましたから、すぐに TNIC への入学を決めました。

### —— プライベートのこと、タイの印象なども教えてください。

今は大学で紹介してもらったアパートに住んでいます。大通りを隔てて向かいですから、通学はとても便利です。バンコクの物価については、特に高いとも安いとも思いません。食事については、ミャンマー料理はタイ料理のようにココナッツをあまり使いませんが、それほど大きな違いがあるわけではないので、大学の食堂で食べたり、近くのスーパーで購入したりしています。欲しいものはなんでも調達できるので、生活での問題はないですね。困るというほどではないですが、タイ語ができないので、お互い慣れない英語でのコミュニケーションに苦労することはあります。

また、タイ人とミャンマー人との違いについて、敢えて言えば、タイの方が何事にも積極的だと思います。タイにいと、ミャンマー人は大人しいと感じますね。

### —— TNICでの授業や将来についてはどうですか。

今のところ授業が難しいと感じることはありません。私は入学以前に Java や HTML、CSS などをちょっとかじっていたので、DSA での勉強も興味を持って取組んでいます。卒業後は TNIC で勉強したことを活かして、タイでプログラミングや IT 関係の仕事に就きたいと考えています。

ミャンマーには父母、現在高校生の妹がいますが、タイに呼び寄せようといったことは、今は考えていません。みんなそれぞれにミャンマーで平和に過ごしていますから、この状態が続いてくれればと思っています。とにかく今は TNIC での留学生活を楽しんでいます。

パインさんはインタビュー後、タイ人の友達を紹介してくれた。いずれもタイの高校を卒業して TNIC に一緒に入学した仲間だ。

これからもたくさんミャンマー人の若者に TNIC に入学してもらい、タイ社会、日本社会で将来大いに活躍してもらいたい。

水谷光一（みずたにこういち） 1990～1996年 TPA で非常勤講師、1996～1999 渉外課長。1999～2004 ABK 勤務。2007年 から泰日工業大学（TNI）勤務。



奨学金情報

奨学金情報はJapan Study Support (JPSS) webサイトで検索いただけます。  
募集の詳細については必ず各実施団体のホームページ等でご確認ください。

公益財団法人 INPEX 教育交流財団 2025 年度奨学生

■主な応募資格

(インドネシア) インドネシア国籍を有し、インドネシアの主要大学自然科学系学部を優秀な成績 (GPA3.00 以上) で卒業、インドネシアに居住し、日本の自然科学系大学院修士課程での勉学を志望する年齢 30 歳未満の者 (オーストラリア) オーストラリア国籍を有し、オーストラリアの主要大学において社会科学系、人文科学系、及び自然科学系学部を優秀な成績 (GPA3.00 以上) で卒業し、日本の大学院修士課程での勉学を志望する年齢 30 歳未満の者 (U A E) UAE 国籍を有し、UAE の主要大学において社会科学系、人文科学系、及び自然科学系学部を優秀な成績 (GPA3.00 以上) で卒業し、日本の大学

院修士課程での勉学を志望する年齢 30 歳未満の者

■支給金額 学費全額負担、生活費月額 16 万円 (通勤定期代を別途支給) 各国⇄日本往復旅費

■支給期間 2 年 8 か月以内

■募集人数 インドネシア 3 名以内、オーストラリア 2 名以内、U A E 2 名以内

■応募方法 主催団体に直接申し込む (ホームページから申込用紙をダウンロード)

■応募締切 2024 年 10 月 31 日

■主催者連絡先

TEL 03-5572-0602

Email isf-foundation@inpex.co.jp

Web https://www.inpex-s.com

公益財団法人 本庄国際奨学財団 2025 年度外国人留学生 (春採用) 奨学金

■主な応募資格

2025 年 4 月時点で日本の大学院に在籍、または入学を予定している者。奨学金支給開始時点で在籍期間が残る 1 年以上あること。博士課程は 35 歳までに入学した、もしくは入学予定であること。修士課程は 30 歳までに入学、または入学予定の者。

■支給金額

- (1) 月額 23 万円を 1 年間～ 2 年間
- (2) 月額 21 万円を 3 年間
- (3) 月額 18 万円を 4 年間～ 5 年間

そのほかに国際学会に出席するための費用

■支給開始 2025 年 4 月以降より大学院の開始時期にあわせて

■募集人数 10 名前後

■応募方法 主催団体に直接申し込む (Web サイト奨学金オンライン申請システム)

■応募締切 2024 年 10 月 31 日

■主催者連絡先

東京都渋谷区富ヶ谷 1-14-9

Email info@hisf.or.jp

Web https://www.hisf.or.jp

こうえきざいだんほうじん どうかきょういくぶんかこうりゅうざいだん しひちゅうごくじんりゅうがくせいしょうがくきん  
**公益財団法人 東華教育文化交流財団 私費中国人留学生奨学金**

おも おうぼしかく  
**■主な応募資格**

2025年4月1日時点で、日本の大学学部3年生以上もしくは大学院に在(入)学する私費中国人留学生(台湾、香港、マカオ出身者を含む)。

■支給金額 月額 10万円

■支給期間 2025年4月度から1年間

■応募方法 主催団体に直接申し込む

ぼしゅうきかん 2024年11月1日～20日

しゅさいしゅれんらくさき  
**■主催者連絡先**

東京都中央区銀座8丁目2番12号

TEL 03-3571-7613

Email info@donghua.or.jp

Web サイト <http://www.donghua.or.jp>

じょうほう  
**イベント情報**

ぜんこくけんせつきぎょう がいこくじんざい しゅうしょくせつめいかい  
**全国建設企業×外国人材 オンライン就職説明会**

2024年10月27日(Sun) 9:00～18:00 11月2日(Sat) 9:00～18:00

外国人材を採用したい外国中小建設企業が参加します！ 企業の人からくわしい話が聞けます！

建設企業の外国人社員からも話が聞けます！

会場：オンライン(ZOOM Meeting)

参加資格：(国籍不問、日本語レベル初級者も参加OK。当日は字幕翻訳ツールあり)

- ① 建築・土木学科のある学校(大学/専門/短大/高専)に所属/卒業の外国人の方
- ② 日本の就労ビザを持ち、日本の建設企業で働いた経験のある方

申し込み Web サイト：<https://www.construction-festival.net/> 締切：2024年10月24日(Thu)

主催：国土交通省(受託会社：PwC コンサルティング合同会社/運営窓口：株式会社パソナ)

連絡先：E-mail:con-fes@pasona.co.jp TEL：03-6734-1270(長嶋、福澤)

ねんど どうきょうこくさいこうりゅうかん こくさいこうりゅう  
**2024年度 東京国際交流館 国際交流フェスティバル**

2024年10月26日(Sat) 10:00～17:00 参加費：無料

会場：東京国際交流館(東京都江東区青海2-2-1)

ねんど ひょうごこくさいこうりゅうかいかん こくさいこうりゅう  
**2024年度 兵庫国際交流会館 国際交流フェスティバル**

2024年11月16日(Sat) 10:00～17:00 参加費：無料

会場：兵庫国際交流会館(兵庫県神戸市中央区脇浜町1-2-8)

(以下2会場共通)

ステージ、ワールドフードコート、ワールドマーケットなど。国際交流館(会館)に入居する外国人留学生、日本人学生、研究者等が交流し、様々な国・地域の文化を知り、国際交流を深める機会です。

主催：独立行政法人 日本学生支援機構(JASSO) Web <https://www.jasso.go.jp/>

問合せ：国際交流フェスティバル事務局(株式会社ドゥ・クリエーション内)

TEL 03-5823-2124 Email kokusai-festival-jasso@do-c.com

**日本インドネシア市民友好文化フェスティバル 2024**

2024年10月19日 (Sat)、20日 (Sun) 10:00 ~ 20:00

2008年に初開催された日本とインドネシアの友好イベント。インドネシアの食、踊り、音楽、文化を日本のみなさまと在日インドネシア人のみなさまに喜んでいただけるイベントです。

**場所**：代々木公園イベント広場

**主催**：INDONESIA JAPAN FRIENDSHIP FESTIVAL 2024 実行委員会

**後援**：駐日インドネシア共和国大使館、JICA、国際機関日本アセアンセンター ほか

**Web サイト**：https://indonesia-festival.jp

**マレーシアフェア2024東京**

2024年11月2日 (Sat) ~ 3日 (Sun) 10:00 ~ 18:00

日本国内だけでなく、マレーシアからも多くの方々が来日、マレーシアのグルメや民族舞踊、伝統文化など、さまざまなコンテンツを楽しめます。

**場所**：豊洲公園・アーバンドックららぽーと豊洲 (東京都江東区豊洲2丁目)

**主催・問合せ**：マレーシアフェア2024 運営事務局 (フィグラティブ・ジャパン株式会社内)

TEL 052-684-8646 Email exhibit@malaysiafair.jp

**Web サイト**：https://malaysiafair.jp

**MEMBERS**

〈会費とご寄附の報告〉

2024年4月

**正会員**

- (2口)
- 孟令權 / 計宇生 渋谷区
- (1口)
- 堀田 泰司 東広島市
- 奥山 義夫 町田市
- 柳瀬 修三 バンコク
- 高橋 作太郎 静岡市
- 熊沢 敏一 松戸市
- 守屋留学生交流協会 千代田区
- 北星学園大学 札幌市

**ご寄附**

- 松浦 秀嗣 国分寺市
- 奥山 義夫 町田市
- 馬杉 栄一 札幌市

- 山口 憲明 日野市
- 細川 敦子 所沢市
- 仁木 美代子 文京区
- 大場 幸子 杉並区

2024年5月

**特別会員**

- (1口)
- 来山 文泰 文京区

**正会員**

- (1口)
- 関川 弘司 / 郁子 千葉市
- 愛知淑徳大学 名古屋市
- 倉内 憲孝 池田市
- 菊地 絵里奈 葛飾区
- 酒井 杏郎 渋谷区
- 竹嶋 栄子 松戸市
- 木村 博 / 劉 彩品 川越市
- 郭 南燕 奈良市
- 長谷川 崇之 さいたま市

**ご寄附**

- 酒井 杏郎 渋谷区

2024年6月

**正会員**

- (1口)
- 工藤 幹雄 文京区
- 千野 克子 墨田区
- 徐 世傑 千代田区
- 関川 弘司 / 郁子 千葉市

**ご寄附**

- 藤寄 政子 千代田区

皆様の温かいご支援に  
感謝申し上げます

## ご入会とご寄付のお願い

当協会は、政府の補助金を受けていない純民間運営の公益法人ですので、財源に限りがあり、皆様方からお送りいただく会費、寄付金は、本協会の活動を支える貴重な財源となっています。何卒ご理解、ご協力をお願い致します。

## 協会のあらまし

名称：公益財団法人 アジア学生文化協会

ASIAN STUDENTS CULTURAL ASSOCIATION (ASCA)

所在地：東京都文京区本駒込 2丁目 12番地 13号

代表者：理事長 白石勝己

設立：1957年（昭和32年）9月18日

故穂積五一氏創設

目的：日本とアジア諸国の青年学生が共同生活を通じて、人間的和合と学術、文化および経済の交流をはかることにより、アジアの親善と世界の平和に貢献することを目的とする。

## ◇ 主な事業 ◇

- (1) 留学生宿舍の運営
- (2) 留学生日本語コースの運営（進学希望者向けの日本語を中心とする教育）
- (3) 留学生に対する情報提供支援
- (4) アジア語学セミナー
- (5) 帰国留学生のアジア文化会館同窓会、(一社)日・タイ経済協力協会、ABK 留学生友の会との連携・協力

## ◇ 会費（年額） ◇

正会員 1口 1万円

賛助会員 1口 5万円

特別会員 1口 10万円

会員には広報誌「アジアの友」が無料配布されます。また、広報誌購入だけを希望される方には、購読料年間2千円（＋税）でお送りいたします。

当財団に対する寄附金は、所得税、一部自治体の個人住民税、相続税、及び法人税の税制上の優遇措置があります。

## 巻末言

- 2024年を個人的に振り返ることを許してほしい。夏に親しい知人から突然「フィンランドに行こう」と誘われた。現在はロシア上空を通る最短経路（飛行時間9時間）は使えず、アラスカ、ベーリング海、北極経由でヘルシンキまで行くので13時間かかるという。おかげで、FIN AIRから「北極点通過証明書」をもらうことができた。
- ヘルシンキでは、観光の定番であるヘルシンキ大聖堂や、電車とバスで2時間ほどのところにある「ヌクーシオ国立公園」に行き、これぞフィンランドというべきひんやりした透明な空気、青い空と白い雲を映す美しい湖と、緑深い森の中を散策し、焚火サイドで小枝にマッシュマロを刺して「焼きマッシュマロ」を食したりした。
- この旅行の中でも印象深かったのは、ヘルシンキ駅の東側に隣接するヘルシンキ中央図書館「オーディ（Oodi）」で、世界図書館情報会議2019年の「Public Library of the Year」に選出されている。外装は木を用いた優美な曲線で、3階建ての広々とした建物全体を覆っている。1階はカフェ、映画館、イベントホールなど。ガラス製のチェス盤の机がいくつも並んでいる。2階は音楽室、調理室、ゲーム室、裁縫室、談話室、会議室、PCルームなど仕事や趣味などグループワークや個人利用できる空間である。
- 3階が「本の楽園」で、低い開架式の書棚と洒落たイスやデスクが配置され、一面ガラスの窓際には日光浴をする人たちが午睡を楽しんでいたりする。その「本の楽園」の一例全部が「MANGA」分類になっていて、私でも知っている「ドラゴンボール」や「ナルト」、「進撃の巨人」のシリーズがずらっと並んでいた。
- 10歳くらいの女の子が2人「ワンピース」の30巻～40巻くらいまでを探しているというので、手伝ってあげた。多分、すべてフィンランド語に翻訳されているのだろう。年齢に関係なく「MANGA」コーナーが一番のにぎわいで、ここまで来て日本の「MANGA」の文化力に思いを馳せることになるとは思わなかった。世界で「MANGA」は「たかがマンガ、されどマンガ」などと言うレベルは、はるかに飛び越している存在になっていると実感した旅だった。（白）

## アジアの友 2024年7-9月号

2024年9月20日発行（通刊第559号）

年間購読（送料共）2,000円＋税 1部500円＋税

発行人 白石勝己

編集 アジアの友編集部

発行所 公益財団法人 アジア学生文化協会

東京都文京区本駒込2-12-13（113-8642）

電話番号：03-3946-4121 ファクシミリ：03-3946-7599

振替口座：00150-0-56754 E-mail：tomo@abk.or.jp

ホームページ：(http://www.abk.or.jp/)

published by THE ASIANSTUDENTS CULTURAL ASSOCIATION

(ASIA BUNKA KAIKAN)

2-12-13, Honkomagome, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8642, JAPAN

☎ +81-3-3946-4121 FAX +81-3-3946-7599

Email：tomo@abk.or.jp Home Page：http://www.abk.or.jp/

会員並びにご購読のお申込みはメール・電話にてお願いいたします。



学校法人 ABK 学館

# ABK学館日本語学校

所在地 〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-12

電話番号 +81-3-6912-0756

FAX +81-3-6912-0757

URL <http://abk.ac.jp>

E-mail [info@abk.ac.jp](mailto:info@abk.ac.jp)



**ABK**  
COLLEGE

3階建て校舎。  
最新の耐震設計です。

## - 留学生の絆が作る日本語学校 -

ABK学館日本語学校（英語名称：ABK COLLEGE）は1957年に設立された公益財団法人アジア学生文化協会で寮生活や日本語を学習した留学生、そして多くの関係者のご寄付と献身的な協力により、学校法人による日本語学校として2014年4月に開校しました。2023年には開校10周年を迎え、アジア各国の留学生を中心とした様々な国の方が在籍しています。



授業風景イメージ



寮の一例



アジア学生文化協会

ABK COLLEGE

一般課程 (進学・就職・生活・資格取得 等)			
	4月入学 1年コース	10月入学 1年半コース	4月入学 2年コース
授業時間	860時間	1,290時間	1,720時間
入学検定料	20,000円		
入学金	100,000円		
授業料 (施設・教材費含む)	640,000円	960,000円	1,280,000円
学歴補充課程 (文部科学省認定 準備教育課程)			
	4月入学 1年コース	10月入学 1年半コース	
授業時間	860時間(日本語) +120時間(基礎科目)	1290時間(日本語) +120時間(基礎科目)	
入学検定料	20,000円		
入学金	100,000円		
授業料 (施設・教材費含む)	720,000円	1,080,000円	

